

特 27

507



戦の責任者は誰か

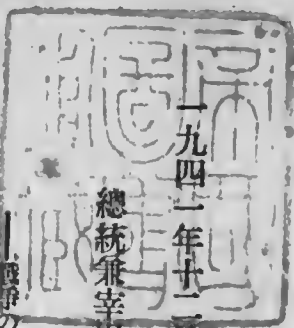
夫れはルーズベルト

ヒットラー總統

リッペントロップ外相

の大演説





一九四一年十二月十一日ドイツ國會に於ける

總統兼宰相アードルフ・ヒトラーの演説



——戰爭の責任はフランクリン・ルーズヴェルトにあり——

世界歴史的事件の概観した一年は近く終末を告げ、極めて重要な決定を見るべき一年は目前の間に迫つてゐる。この重大なる秋に當り余は茲にドイツ國民の代表者たる諸君に呼び掛けんとするものである。然し更にこれにより余ドイツ國民は過去の事象及び現在、將來下されねばならぬ決定につき知るべきである。一九四〇年餘の和平綱案が當時の至善相頭に彼を支持し或は制衡する一味により再び拒絶さるるや同年秋吾人は今次の戦争を理、性と必要性に基く凡ゆる理由に反しても終局まで戦ひ抜かねばならぬものであることが明かになるに至つた。爾貴諸君！諸君は余が終給一貫、中途半端や軟弱な決意を憤懣しつゝけて來た事を諒て知悉して居られると思ふ。爾の獨理がドイツ國民をして今次の戦争を回避し得られぬ様に欲し給ふたならば今後五百年乃至一千年に亘りドイツのみならずヨーロッパの歴史、否、世界の歴史を決定的に遺るこの一の史的戦争の擁護が余に委せられたに對し余は爾の獨理に賛成したいのである。ドイツ國民及びその兵士が現在戦場と闘つてゐるのは、之は眞に自己及びその時代の爲のみではない。同時に來るべき、否、先きの先きの時代の人々の爲である。爾は我々に則古無比の史的、大修正の完遂を委嘱せられた。これが達成こそ實に今や我々に課せられた責務である。

ノルウェー戰終了直後既に西部に於ては停戦の可能性が生じたのでドイツ國の海軍部は先づ第一に政治的・戰略的及び經濟的に重要な占領地區を取り敢えず軍事上確保するの止むなきに至つた。それが當時占領された諸國の抵抗力の方向は爾來一變したのである。大規模な基地及び要港地帯は今やキルケネスからスペインの國境迄に及んでゐる。無數の飛行場は新設された。然もこれは悉く北部に於て或るものは花崗岩の原石露出により造られたのである。而しては海上からも空中からも實際上確實な防衛を有する潜水艦基地が建設された。又千五百餘の砲臺は防衛の衝に當つてゐて、その陣地は調査され計畫されて構築されたものであ

る。尙ほ道路及び鐵道が建設され、現今はスペイン國境とベツアモ間の地が海上とは無關係に確保されてゐる。海陸空軍の工兵隊及び建設大隊はトッド部隊と提携して茲にジグフリード線に最も適色なき施設を構築したのである。然も尙發熱としてその擴大強化に努力なき有様である。

このヨーロッパの正面を如何なる敵の攻撃に對しても不可侵たらしむること、これ余の斷乎たる決意である。昨冬中も斷續された防禦的性質を有するこの事業はそれ迄は季節の關係に制限されてゐた攻勢的戰爭が遂行されるに及んで完成されたのである。ドイツの海上並に海中戰隊力はイギリスの艦隊にその任務に服する艦船に對して不斷的襲撃戰を續けた。ドイツ空軍は偵察並に攻撃により敵艦隊を援助し、英本土に對する無數の報復襲撃により所謂「驚愕的戰爭」とは如何なるものであるかを、より明かにイギリス人に示したのであるが何ぞ計らんこの「驚愕的戰爭」の元祖たるや第一に現イギリス首相その人に指を懸ねばならぬ。

今次の戰爭に於いて昨年の半ばドイツは特にその盟邦イタリアの援助を受けた。數月に行つてイギリス勢力の一大部分が盟邦イタリアの双翼に重く被さつてゐたのである。英軍は既に重戦車の極めて優勢なお蔭で北側に於ては一時危機を招來するに成功したが、昨年三月二十四日には早くもロメル將軍指揮下の少數部隊より成る獨逸軍が反撃を開始したのである。四月二日にはアゲダビアが陥落し、四日には戰台軍はベンガジに到達、八日にはデルナに入城し、十一日にはドブルクを包圍し、十二日にはバルディアを占領した。ドイツのアフリカ遠征部隊は、戰場の氣候が全く相違し、ドイツ人には不慣れであつたにも拘はらず愈々以て益々たる戰果を収めたのである。嘗てスペインに於ける如く今や獨逸兩國は北アフリカの野に於いて同一の敵に對し手に手を携へて戰つてゐる。

斯くの如き果敢な行動により北阿爾卑斯が獨逸兵士の血を犠牲にして再び確保されてゐる間に歐洲は既に恐るべき不吉の影に覆はれたのである。余は一九三九年秋緊急已むを得ざる必要に迫られ獨逸との不和を排除して全面的な平和の前提を確立せんと決心した。元來ドイツ國民、特にナチス黨の堅持するボルシエイズムに對する立場が全然反對なためこれは余に取つて精神的には苦痛であつた。然し乍ら實際上は困難では無かつたのである。何故かといふとイギリスがドイツにより脅威されてゐると稱し援助を口實にして侵略した凡ゆる國々に對してはドイツは事實上に經濟的利害のみを目標としてゐたからである。

ドイツ國民諸君！余は又その理由として諸君に回顧して置き度いのはイギリスが一九三九年初夏及び盛夏に又もや多數の國々に對してドイツが之に侵入しその自由を剝奪する意向を有してゐるかの如く主張して、之等諸國に援助を申し出た事である。因つてドイツ國及びドイツ政府はこれは毫も事實に即せざる虚像に過ぎないものであると確信を以て斷言し得たのである。加之英外交に牽ぜられて一の戰爭がドイツ國民に強加せらるる様な場合にはドイツはその戰を極めて高價な犠牲を拂つてのみ遂行可能な所謂二面作戰により敢行するより他はないといふ冷然たる軍事上の斷言を得たのである。更にバルチック諸國、ルーマニア其他がイギリスの援助を決定に傾き又これによつて彼等諸國も亦斯くの如き脅威を信する旨を暗示したので自國の利害關係の境界を決定することはドイツ政府にとり軍に獨利のみならず同時に義務であつたのである。

之等の諸國は其の後にもなく東部の脅威に對する最も強力な保證となり得た唯一の要索は獨りドイツ國のみであつたといふことを認めざるを得なかつた。之等の國が斯く後になつて始めて認識したのはドイツとしても遺憾とするところである。更に角彼等の進出したのはその自己の政策を通じてドイツとの連帯を強固し、その原因に他國の援助を信頼した結果に他ならないのであつてこの

他國たるや數世紀來文字通りの自己主張に固し、未だ曾て援助を與へず寧ろ常に敵愾を要求した國である。

然し何らドイツは之等の國々の運命に就いては同情の念を禁じ得なかつた。フィンランド人の冬季戦争は吾人に善隣と感嘆との混同せる一種の感情を抱かしめた。感嘆したのは吾人自身が尙武の國民として英雄的行爲や犠牲心に對し感佩し易い情懷を有するが爲であり、又心算しく感じたのは吾人が西部の脅威的艦と東部に於ける危懼とを望しく目前にみづから當時はこれらの國を武力を以て援助し得ぬ立場にあつた爲である。而してソ聯がドイツの政治的影響を限定してこれによりその國外にある諸國を事實上援護するの權利を提出せんとすることが明かとなつた後の露ソ關係はたゞ單に各自の目的を追求する爲に續けられたに過ぎなかつたのであつてこれは凡そ理性と感情との全く詰さるゝところであつた。

ドイツは其の後數箇月を経て一九四〇年には早くもクレムリンの一味こそヨーロッパを支配し、以て全歐を掌握せんと意圖的に計畫する者であると認定するに至つた。余はドイツがソ聯の國境に隣接せる外に僅か數個師團の兵力を配備するに止めた當時既にソ聯の軍力が東部に於て前進せる事實につき概算を明かにしたのである。既に當時東部に於ては前古無比の大規模なソ聯軍の前進が實行されてゐたことは吾人と雖も看過し得なかつた。然も警戒されてゐないものを防戦せんとする目的ならばせめてもまじであるが、然らずして寧ろ防戦力を最良、有しない様に見えたものを攻撃せんとのみしたのである。

而して西部に於ける戰時が戰時的に終結してモスクワの爲政者達が當にしてゐたドイツの急速な國力増強の可能性が消え失せたにも拘はらず彼等の意識は毫も變らなかつたのであつて、寧ろ彼等は攻戰の時期を更に遷延したに過ぎなかつた。彼等は恐らくは一九四一年の夏こそ攻戰開始の爲めには最も好機であると思つたに違ひない。全歐は所謂蠻古人の新らしい襲來に依つて危く蹂躪

されんとしたのであつた。

然しこれと時を同じうしてチャーチル氏は對獨戰を強化すると宣言した。彼は今は一九四〇年英下院秘密會議の席上、ソ聯の参戰を以つて今次の戰爭を有利に轉戦し終結せしむる最も重要な因子であると強調し又ソ聯の参戰は遅くとも一九四一年には實現し、次いで英國は自國もまた攻戰に移り得るであらうと自ら示唆した事實を單佐にも否定してゐる。今年春、我々は従つて薩國たる表裏の爲め人力及び物資を無慈悲に所有するかの如く見えた、一大國の連軍の跡を追ふたのである。斯くしてヨーロッパは愈々暗黒に閉ざるに至つた。

野矢諸君！ 然らばヨーロッパとは何んであるかといふにヨーロッパ大陸については何等地理的定義が無い。只民族的及び文化的定義があるに過ぎない。ウラルはヨーロッパ大陸の境界ではなく、西方の生活様式を東方のそれと隔絶するその線である。

昔ては斯ういふ時代があつた。それはヨーロッパがギリシャの島嶼の樞なものであつて、こゝへ北方の民族が侵入して來つて盡く來つながら不斷に人類の世界を明瞭にした殆をこゝで初めて點したのであつた。このギリシャ人共はベルシヤの征服者の侵入を防いだ時にはその狹隘な故國を防護せず却つて現今ヨーロッパといふ此の概念を防いだのである。

而して次いでヨーロッパの中心は古代ギリシヤからローマに移つた。茲に於いてローマの思想及び政治がギリシヤ精神並にギリシヤ文化と合體したのであつて、これにより一大國が建設されたが現今も尚その意志と經濟的力を保持してゐないのである。況んや薩國ではないことは勿論である。然し、ローマ軍がアフリカ軍のカルタゴ侵略に對抗し三回も参戰してイタリーを防禦し且つ遂に勝利を博した時、彼等の戰つたのは再びローマのためではなかつたのであつて、寧ろギリシヤ、ローマ的世界を包圍せるヨーロッパ

ツバのためであつた。

新しい人種文化のこの故國の土地へ次ぎに侵入したのは遠くアジアより歸來した民族であつた。非文化的な、野蛮の荒ろしい大群が東アジアから現今のヨーロッパ大陸の中心地まで火を放ち殺戮を行ひつつ恰も獅の獵野の如く歸來した。次いでカタラニアの曠野でローマ人とゲルマン人が始めて協同し重大な運命戰を遂行しギリシヤ人に覇を認しローマ人を壓て今やゲルマン人にも終戰を與へた一の文化を擴張したのである。

ヨーロッパは成育した。古代ギリシヤ及びローマから西洋が生れた。而して西洋を擴張することは數世紀に亘つてひとりローマ人の使命のみならず時にゲルマン人の使命であつたのである。然し何ら西洋がギリシヤ文化の照明を給ひローマ帝國の力強い傳統を感受し且つゲルマン人の團體によつて擴大するに因つてそれだけ一の觀念が地地的に擴がつたのであつてこの觀念を我々はヨーロッパと呼んでゐるのである。ドイツの皇帝がウンシュトルツ河畔や或はレッツヒ河畔で戰つたのは東方民族の侵入を阻止する目的であつたかどうか或はアフリカが長年戰つてスペインから獨立したかどうか、かう云ふことは枝葉な問題に過ぎない。要はこれらも皆常に成長せんとするヨーロッパが根本的に異つた世界に對して遂行した一の戰爭であつたのである。而てローマはヨーロッパ大陸の建設防衛のため不朽の功績を擲てたが次いでゲルマン人も今や諸民族より成る一の所謂家族を防衛し守護するの任を引き受けたのであつて、この家族内に於ては相互にその政治形態及び自然について尙ほ相違し相反するものがあるが、然し全體から見れば血統上及び文化上部分的には同じであり又部分的には統一を保つてゐる。而してこのヨーロッパからは地球の他の部分へ移住するものが出でたばかりでなく同時にヨーロッパからは精神及び文化的果實が他の大陸へ移植されたのであつて、この果實は眞理

を否定せずして追求する意志ある者のみに駁論するところである。

國つてヨーロッパはイギリスにより開化されたものではなく寧ろヨーロッパ大陸に於けるゲルマン民族の片われがアングロサクソン及びノルマン人としてこの島、即ちイギリスへ渡り、これを進歩せしめたもので、この進歩は但し長くは續かなかつたのである。而してこれと同様にアメリカがヨーロッパを窺見したのではなく、ヨーロッパがアメリカを窺見したのである。アメリカがヨーロッパからは輸入しなかつたものは凡てユダヤ化した一の混合民族にとつては嗤笑すべきものと思はれるかも知れぬがヨーロッパは斯くの如きものは藝術及び文化生活を顯揚せしむるもの發言すればユダヤ人或は黒奴の血統の遺産としか思はないのである。ドイツ國敎皇諸君！余が斯くの如く論及せざるを得ない理由は本年の初めより徐々に必然的になり、且つ第一にドイツ國が其の飛躍に當る機軸ある今次の戰爭こそ同様にドイツ國及び國民の利益を超越するものであるからである。發言すれば吾てギリシヤ人がベルシヤ人に抵抗しギリシヤ自國を防がずして寧ろヨーロッパを防衛し、ローマ人がカルタゴ人に對しローマにあらすてヨーロッパを、又ローマ人及びゲルマン人が匈奴に對し西洋にあらすてヨーロッパを、ドイツの皇帝が蒙古人に對してドイツにあらすてヨーロッパを、スペインの英雄がアフリカに對しスペインにあらすてヨーロッパを、防禦した如く、ドイツも亦目下自國の爲にあらすして全ヨーロッパの運命の爲に戰つてゐるのである。

この駁論が主なるヨーロッパ國民の根本意識に現今際々機軸を下ろしてゐる事は疑ふべき體裁であつて、この現れが個人の赤裸々な意見の發露たると勇兵の戰争参加たるを問はないのである。

ドイツ軍にイタリーの軍隊が本年四月六日ユーゴスラヴィア及びギリシヤの攻勢を敢行した時が既に目下我々が進行中の大戦

戦の序幕であつた。何故かといふにイギリスの主謀者共は、この戦争勃發に關與してはゐたが、然し實はロシアがその主役を演じてゐたからである。余がモロトフ氏のベルリン訪問の際同氏に對し拒絶したことをスターリンは再び我々の意欲に反し、革命的運動により所謂總力軍をして發行し得るものと信じたのである。締結された諸條約等は悉く棄絶せずボルシエウイヤの主權者共は彼等の意向を強化したのである。この新しい革命的政權たるソ聯と友好條約を締結するに及んで忽然として舊威の危險の逼迫が明らかになつた。今次の戦争に於けるドイツ國防軍の素績は一九四一年五月四日のドイツ國會で正しく評價された。然し當時余は我々が急遽に或る國との衝突に暴進してゐたのを駁論せる旨については幾分自ら聲明を避けねばならなかつた。この國はバルカン戰の時はその進軍が未だ完結せず又特にその當時の季節には雪掛けが絶まつて滑走路の地質が脆んでゐた爲に飛行基地が利用出来なかつたといふ原因で當時は未だ攻撃を開始しなかつたものである。

ドイツ國會議員諸君！

余は陛下の報告を通じて又ドイツ國境にソ聯軍が移動せる事實を看取して東部に於ける危懼勃發の可能性を駁論したため斷言な戦車、機械化及び歩兵部隊を配備する様直ちに命令を下した次第である。

これが前提をなしたのはドイツが人的に又物量的に尚ほ充分能力を保有してゐる事であつた。議員諸君！之は余が諸君並びに全ドイツ國民に向つて敢て保障し得るところである。

過去に於ては民主主義諸國に於ても吾人の容易に理解し得る如く軍備については種々論議されてゐたが、その間に我國民社會主義トイフは實々と軍備を整へたのである。此の點は過去も現在も何んら變らない。我々は一度決定が下されば、いつもより多い又

より優秀な武器を得る事が出来る。

如何なる場合も敵をして我心腹へ始めの一撃を與へしめざる事が緊要であると如何に認識してもこの場合ソ聯に對し決心をなすのは余にとつて極めて困難であつた。民主主義新聞記者は余がボルシエヴィキの力を精確に知つてゐたならば恐らくソ聯に對し攻撃を開始し得なかつたであらうと現在往々論じてゐるがこれは當時の情勢と且つ余、個人を見損ふのも甚だしきものと云はなければならぬ。余は戦争を自から求めた事はない。吾等は反響に回應せんと凡ゆる努力を拂つたのである。若し余が戦争の不可避を認め得らば唯一の可能な結論を引き出すことを躊躇したとすれば恐らくは義務を忘れ良心を捨てて行動したことになつたであらう。余はソ聯こそ軍にドイツ國のみならず全ヨーロッパにとり致命的危險因子であると考へたので、出来得れば衝突勃発の數日前に自ら敵に攻撃の目標を提供せんと決心したのである。ソ聯が攻撃せんとしてゐた事實については數多の確實な證據がある。同時に又我々はソ聯が攻撃せんとした時期についても明確に知つてゐたのである。この危險が想像以上大規模であつたのを今や始めて知るに至つて余は神が我等のなさればならなかつた事を遂行する力を時期を遣へず余に與へられたに對し余は在天の神に感謝せざるを得ない。余の誠ソ聯に對してはひとり何千のドイツ將兵がその生命を犠牲すべきのみではなく實に全ヨーロッパの在立はこの決断に依つて維持されたのである。

若しソ聯の二萬以上の戦車・數百ヶ師團の軍隊、數萬に達する大砲が數萬の飛行機に誘導され突如として吾等の如くドイツを陥落して行動を起したとするならば、恐らくはヨーロッパ人は滅亡して了つたであらう。運命は多數の國民をその血を犠牲に供してこれに先んじしめた。即ちボルシエヴィキの攻撃を阻止せしめたのである。若しフィンランドが再び干戈を執る決心を直ちに下さ

なかつたならば北歐諸國の有する地味な性質は瓦解したであらう。若しもドイツがその精兵と武器を以て、この難に對抗し立ち上らなかつたならば歐洲の均衡維持といふ笑ふべき英國思想を全く破らない時運けた運命により實現せしめんとした一つの思案が全歐洲を席捲したであらう。

スロヴァキア人、ハンガリア人及びルーマニア人がこのヨーロッパの世界を共に擁護しなかつたならばボルシェヴィキの暴徒民はアテラの奴隷群の如くドナウ諸州に流れ狂ふたであらう。而してイオニア海沿岸の廣野で今日の時勢に暴動人や蒙古人が、モンロー條約の改訂を強迫するに至つたかも知れぬ。イタリー、スペイン、クロアチアが師團を派遣しなかつたならば、新ヨーロッパの宣言として凡ての他の國民へも同時に勢力を授け與へた一のヨーロッパ擁護戰線などは結成されなかつたのであらう。かゝる威嚇を演習して北部並びに西部ヨーロッパからノルウェー人、デンマーク人、オランダ人、フランダース人、ベルギー人更にフランス人の義勇兵が馳せ参じたのである。これに依つて獨逸諸國の戰爭は眞に文字通りのヨーロッパ十字軍たる性格を有するに至つた。

このヨーロッパ十字軍征戰の企劃及び指導を斷るには今は時期尚早である。然し乍ら戰跡地帯が餘り甚大であり、又事件が餘りに複雑重大である爲、諸々の印象が打ち消され、又記憶に留め得難い前古未嘗有の今天の戰爭について既成の事實を二、三指摘する事は余は既に今でも差支へないと考へる。

露ソ攻撃が開始されたのは實に六月二十二日の黎明であつた。我軍はソ聯の對露進駐を異常的に支持せんとして設けられたソ聯の國境地帯を迅速不可能な猛烈さを以て長く間に占據したのである。六月二十三日には早くもグロドノを占領し、二十四日にはブ

レスト・リトヴィスキの陥落後、城を奪取してヴィルナ及びコウノを攻めた。かくして六月二十六日にはデューナブルグが我軍の手に入った。越えて七月十日にはプリマンスクとミンスクの最初の二大要塞が完了したのであつて當時我軍は三十二萬四千人の補給を要し三十三萬三千二百二十箇の戦車と千八百九門の砲を捕獲した。十月十三日には既に殆ど凡ての重要な地點に於てスターリン線が破壊され又ドニエプル河の要河も陥落された。八月六日にはスモレンスクの戦跡が終つし捕獲三十六萬を算し我軍は三千二百五箇の戦車と三十三萬三千二百二十門を捕獲又は捕獲した。その後三日を経て早くも其他のソ聯軍の運命は決したのである。即ち八月五日ウマンの戦跡に於て再び十萬三千名を捕獲とし、戦車三百十七、砲一千百門を捕獲又は捕獲したのである。八月十七日にはニコラエフが陥落し、廿一日にはチエルソンが占領された。又同日ガメル方面の戦跡が完了したが其際我軍は捕獲八百四十を得、戦車百四十四、砲八百四十八門を捕獲又は捕獲した。八月廿一日にイルメン湖とバイブス湖間のソ聯軍防線は我軍の突破する所となり、廿六日にはドニエールペトロウスクの橋頭堡が我軍の手に歸した。

同月廿八日には既にドイツ軍は東部の後レバール及バルチック港に退出し又フィンランド軍は卅日ヴィプリーを占領したのである。九月八日シュリユツセルブルグが占領されるに至つてレニングラードは南方との連絡を完全に遮断された。十六日にはドニエプル河の橋頭堡を占領して既に十八日にはポルトフが我軍の手に落ちた。十九日には我軍は東部の如くキエフの城砦に迫り同市を占領して廿一日にはエノゼル河を渡河したのである。斯の如き大成功によつて始めて大作戦の實が現したのである。廿七日にはキエフ方面の戦跡が完了したがこの戦跡に於ては捕獲六十六萬五千に達した。敵等は戦線長蛇をなして西部へと退却されたのである。同時にこの戦跡に於ては戦車八百八十四、砲三千百七十八門が捕獲された戦跡地で我が手に歸した。十月三日には既に東部

戦線の中央部に於て突撃戦が開始され、十一日にはアゾフ海沿岸の要地は奪々たる戦果に陥られて終つたのである、その際海兵捕虜十萬七千名、戦車二百十二輛、砲六百七十二門を捕獲した、十月十六日には獨逸聯合軍は戦線の後オデッサに入城、同十八日には十月二日に開始された東部戦線中央部に於ける突撃戦が世界史上稀有な大勝利の裡に完了した、同戦線に於ては六十六萬三千名を捕獲とし、戦車千二百四十二輛及び砲五百五十二門を捕獲又は破壊したのである、又十月廿一日にはダゴが占領され同月廿四日にはハリコフの工業中心地を占領した、更に廿八日にはクリミヤ半島への通路を海陸後援隊に既にして十一月二日には首都シフエロポールに突進し十六日にはケルチに至るまでクリミヤ半島を通過したのである、十二月一日にはソ聯軍の捕獲總數は三百八十萬六千八百六十五名に達した、また戦艦及び商船せる戦車の總數は二萬一千三百十一輛、砲三萬二千五百四十一門、飛行機一千七百三十二機に上つた、又同期間内に英軍二千九百九十一名をも捕獲したのである、尚ほ海軍によつては四百十七萬六千六百一十一名の艦船が軍艦によつては二百三十四萬六千六百八十名が沈没された、其の戦艦總數は六百五十萬六千七百九十一名に達した。

國民諸君！ 國民諸君！

これは全くありのまゝの事實であるが、恐らく諸君にとつては無味乾燥な數字であらう。然し乍ら諸君は我々ドイツ國民の歴史に對し戰慄に記憶からこれを掻き消さない様にと余は祈るものである。何故かと云ふにこの數字の脇には榮耀と犠牲と痛苦が隠されてゐる。ドイツ國民及びその盟邦の數百萬の最良の男子が消く決死的な魂、滅私奉公の精神が宿つてゐるのである。

これは凡て生命と生活を全部投げ盡し故國では殆んど想像の及ばぬ努力を拂つて獲得されたものである。遙く無限の境に進軍し戦線と海に苦闘し、果てしなき泥濘の道に阻止され殆んど絶望の境に陥り、七、八月の酷熱、十一、十二月の冬の暴風と闘ひつ

白海から黒海に至る不慣れた旅路に曝され、糧に飢み、荷物や武器に苦勞し、雪や氷に凍えてドイツ人、フィンランド人、イタリア人、スロヴァキア人、ハンガリー人、ルーマニア人、クロアチア人、北部及び西部ヨーロッパ諸國よりの義勇兵は順つたのである。こゝに余は特に東部戰線の兵士を挙げたい。然し冬季に入るに及んで今やこの戰線行動は自然的に停止され、夏季の到来と同時に進軍は再び續行される。

余は本日は軍隊の名を一々挙げたり、または各司令部の功績を稱揚したりしようとは思はない。彼等は事つてその最善を盡したのである。然し乍ら、或る一事だけはこれを何程でも稱揚するのが、理解ある事であり又正當であると考へる。即ち、凡ゆるドイツ軍將兵の中で、最も困難な戰線任務に服してゐるのは、今も昔と變らず、我等が世界に餘る歩兵部隊だといふことである。

六月二十二日から十二月一日までの間にドイツ軍が今次の英雄的戰闘に於て失つたのは、戰死者十五萬八千七百七十三名、負傷者五十六萬三千八十二名、及び行方不明者三萬一千一百九十一名であり、空軍にあつては、戰死者三千二百三十一名、負傷者八百四十五十三名、行方不明者二百八名であり、又海軍では、戰死者三百十名、負傷者二百三十二名、及び行方不明者百十五名である。國つてドイツ國防軍は全部で戰死者十六萬二千三百十四名、負傷者五十七萬一千七百六十七名、行方不明者三萬三千三百三十四名を喪失した。かくて、戰死者の數は前大戰のソムム戰の戰死者數の約二倍強で、行方不明者の方は當時の數の半數に達しない、然し凡てがこれ皆我が國民の父であり兄弟である。而して諸君、余は次にかの一つの他の世界に對して意見を發表してみよう。その世界は數多の國民と將兵が氷雪の中で戰つてゐる時に、いゝ氣になつて遠處で閑談などに耽る譯のある男に代表される。而もその男といふのが今次の大戦の類もの要人たる世界である。一九三九年に當時のポーランド國に於ける諸國民の狀態が概々堪へ

難きものとなつた時に、余は公正なる立場によつて満足すべき解決に達せんものと努力する處があつた。暫くの間は恰もポーランド政府自身が理性的な解決法に同意すべく、眞面目な考慮を拂つてゐる様に見えた。余が茲で尙附言し得る事は、これら總べての國家に於いてドイツ側は、以前にドイツ側であつたもの以外の何物をも要求しなかつたといふことである。

否、それどころか、寧ろ反經に我々は、前大戰以前にドイツに所屬してゐたものをも少なからず奪はした程である。諸君は今此の當時の實際的過程や、益々増大したドイツ系民族の犠牲を想起されるであらう。

此諸君！ 諸君はこれらの血の犠牲を今次の戦争の犠牲と比較してみるならば、當時の犠牲が最大であつたのを最もよく測り知ることが出来るのである。東部戦線に於ては之迄にドイツ國防軍は總數十六萬の戦死者を犠牲に供した。然るに、當時を見るに極めて平和な時代であつたに拘はらず數ヶ月間にポーランドでは六萬二千名を超えるドイツ人が殺害され、而もその一部は殘虐極まる拷問を受けたのであつた。我ドイツ國が佔領地に於ける斯かる状態に眞摯を申立て、而してこの状態の打開を嚴重に要求し、且つ轉じて自國の安全についても考慮を拂ふべき權利を有してゐたといふことは、他の諸國が他の諸大陸に於いてさへその安全のため基地を追求する如き現在の時代にあつては、極めて當然な事である。解決せらるべきであつた問題は、眞十的に見れば明確なものであつた。本質的には、ダンテツヒ及び東部プロシヤの切斷されたる地方と餘餘のドイツ國領との連繫といふ問題であつた。他ならぬこのポーランドに於いて當時ドイツ人に加へられたあの殘酷な數々の迫害は、思ひみるだに觸れつけざるを得ないものがある。尙ほポーランドでは他の少數民族等も亦これに劣らぬ悲慘な運命を忍ばねばならなかつたのである。同年八月に入つてから、全權委任の形式で與へられたイギリスの保護のためにポーランドの態度が益々強硬となつて來たのに鑑み、ドイツ國政府は、

これを最後の機會として、一擧の提案を行ふことに決し、この提案に基いてポーランドと交渉に入る用意を有し且つその旨を當時のイギリス大使に口頭で通告したのであつた。余はこれらの提案を今日こゝで記憶から呼び起し、再び諸君の注意を喚起したい。

その時の提案といふのは、ダンチツヒ朝臣阿羅重びに獨逸兩國に於ける少数民族問題の調停に關するものであつた。當時ドイツポーランド間の情勢は頗る緊迫してゐて、正に一擧即離の狀態にあつたものといふことが出来る。そこで、如何なる平和的解決と雖も、それがすぐ次の機會に斯かる狀態の原因となる如き諸事象を生ぜしめないやうに、またそれによつて單に東部ヨーロッパのみならず、他の諸地方までも同様の緊迫狀態に陥ることのないやうに、達成せられねばならぬのであつた。

事象がかくなつた原因は、第一には、ヴェルサイユの所謂協約によつて定められた實行不可能な國境劃定法にある。第二には分離された諸地方に於ける少数民族に對する不當な取扱ひが原因である。そこでドイツ國政府は、これらの提案に際して、國境劃定を清算して双方にその存立に必要な連絡施設し、少数民族問題も出來得れば解決せんとする考慮及び若しもこれが不可能の時、少数民族の運命を、彼等の權利の完全なる保護によつて堪へ易いものにしようといふ意圖から出發したものである。ドイツ國政府の懸念せるところでは、その場合一九一八年以來行はれて來た經濟的及び肉體の損害を明かにし、且つそれを全面的に補償することが絶對に必要であつた。ドイツ國政府は、この種の懸念行爲を以て、當然双方を拘束し得るものと看做した。即ち、かかる考慮に基いて次の如き實際的な提案が提出されたのである。

第一、自由都市ダンチツヒは、同市の總體たるドイツの性格並びに同市居住民の一致せる意思に基いて、直ちにドイツ國に復歸すべきものである。

第二、バルチック海からマリエンヴェルダー、グラウデンツ、クルム、プロムベルクを繋ぐ道へこれらの都市を含むに至るまで及びそれから東西の方シエーランデに至る所謂過境地帯は、そのドイツ又はポーランドへの所属に就いて各自により決定せらるべきこと。

第三、かかる目的の爲に此の地方は、緊決を行ふこと。その緊決権を有する者とは、一九一八年一月一日現在同地方に居住してゐたか又は同日までに同地方に生れたる總てのドイツ人及び同様に同日同地方に居住してゐたか又は同日までに同地方に出生せるすべてのポーランド人、カシニューブ人等々である。而して同地方より放逐せられたるドイツ人等は彼等の緊決を行ふ爲に懸念すること。

公正なる緊決を確保するため並びにそのために必要な過渡的な準備工作を保障するために、前述の地方はザール地方に於けると同様に、直ちに構成せらるべき國際委員會に従屬せられること。同委員會はイタリー、ソヴェト聯邦、イギリス、フランスの四大國により構成せらる可きもの。同委員會は同地方に於ける一切の主權を行使する。その爲には意見の一致し得る限りの最短期間中だけ、同地方からポーランドの軍隊、警官及び官吏が退去せしめられることを要する。

第四、該地方から除外されるのはポーランドの海港グデニヤである。同港は、領土的に見てポーランドの植民地に限定せられてゐる限り、原則上ポーランドの主權下にある地帯である。

本ポーランド海軍都市の一層細目に置る地帯はドイツ、ポーランド兩國間に於て懸念せらるべく、また必要な場合にはそのための國際仲裁裁判所を設けて確定すべきものとす。

第五、正當なる解決を遂行するに必要な諸般に要する時間を保留するため、本解決は十二ヶ月を経て始めて施行せらるべきものとす。

第六、この期間ドイツ國に對しては同國東部プロシヤとの連絡を、及びポーランドに對してはその國の海洋との連絡を、夫々無制限に保留するため、自由なる通過交通を可能ならしむべき道路及び鐵道が建設せらるべきこと。この場合、當該交通の維持乃至發達の遂行に必要な如き關稅の徵收に限り施行せらるること。

第七、本地方の所屬は専ら投票の多數決により決定せらるべきものとする。

第八、解決の行はれたる後その遂行如何に關係なくドイツ所領地たるダンチツヒ州や東プロシヤとの自由なる交通を確保し、またポーランドに對してその海洋との連絡を保留せんがために、若しもその解決地方がポーランドのものとなつた場合には、大體ビュトフーダンチツヒ乃至デルシヤウの方向に於て、ドイツ國有自動車道路並びに復線による鐵道聯絡を敷設するために、一時的に治外法權交通地帯が設置せらるべきこと。これらの道路及び鐵道の建設は、それによつてポーランドの交通路が妨害せられざる様即ちその交通路の上を超えるか又はその下を渡るかの方法で遂行せられること。この地帯の職員は一軒に決定せられ且つドイツの主權下にあること。

若しも解決の結果がドイツ國に有利となつた場合には、ポーランドは、その所有する諸國たるグチニヤへの自由にして無制限なる交通のために、ドイツに許さるべきものと正に同様の、治外法權的な、道路乃至鐵道交通の權利を享有し得ること。

第九、總歸地帯がドイツ國に歸屬せる場合には、同地帯が通過とする範圍に於いて、ポーランドとの間に居住民の交通を行ふべ

きは自明なること。

第十、ポーランドの希冀せるダンテツヒ港に於ける特權の如きは、ドイツのグチニヤ港に於けると同様の權利と、對等に取扱はれて然るべきものであらう。

第十一、本地方に於ては獨裁を興ふるが如き如何なる感情をも排除せんがために、ダンテツヒとグチニヤとは純然たる商業都市としての任務を保有すべきこと。換言すれば、一切の軍事的施設及び軍事的防衛工事を施さざること。

第十二、投票の結果ドイツがポーランドの何れかに歸屬すべきヘラ半島はいづれにしても軍備を撤除すべきこと。

第十三、ドイツ政府はポーランドの少數民族取扱に就いて嚴重抗議を提出する要あり、又ポーランド政府亦ドイツに就いて幾多不調表明の必要を認めつつあるものの如くであるが故に兩國は茲に遺憾の不調を國際調査委員會に懸附することに同意する。該委員會は經濟的、有形的損害並びにテロ行為に關する一切の抗議を調査する任務を帯びるものとす。

ドイツ及びポーランドは一九一八年以來發生を見た一切の經濟的其の他の、兩國少數民族の蒙りし損害を賠償すると共に一切の徵收を停止し又は、此の種及び其の他の經濟生活への干渉に就いて該法者に完全な賠償を行ふべき義務を負ふ可きものとす。

第十四、ポーランドに殘留するドイツ人並びにドイツに殘留するポーランド人が有する國民法侵犯の感情を一掃し且つ彼等に國民的感情と相容れざる行動義務に強制されざる安全感を興へるためドイツとポーランドは、廣汎且つ暴力的の協定を締結して兩國の數民族の權利を確保し、以てこれら少數民族にそれぞれの民族性を保持せしめこれを任意毀損せしむると共に、これが目的達成のために彼らの必要と認むる組織を設けるに同意する事、兩國は少數民族所屬者を兵役に徵集せざる義務を負ふ事。

第十五、上記諸提案に基き協定の成立を見る際にはドイツ及びポーランドは直ちに兵力の動員解除を手配實施するに留意すること。

第十六、上記取極めの促進に必要な今後の措置についてはドイツ及びポーランドは協力してこれが一致を計る事。

因てドイツの提案は以上の通りであつたが、當時のポーランド政府はこれらの提案に對して回答することさへも拒絶し來つたのである。これについてはかかる勢々たる一國家が此のやうな提案を一顧せるに止まらず、自國に一切の文化を感興して來たドイツ人に對して依然として惡意なる行爲をなせるのみならず、動員兵の撤去を採つたのは何故であらうかといふ疑問が起るのであるが後日在ワルシヤウ外務省の公文書を開覽するに及んで我々は驚くべき事實を知るに至つた。

即ちこゝにポーランドの拒絶力を強化し、事態を和解に導く一切の可能性を打破する目的を抱いて無責任にもその全勢力を注ぎ込む一人物があつたのである。

當時のワシントン駐劄ポーランド公使ポトツキ伯爵が同國政府に呈した報告なるものは公文書であるが、これによればこの一人物及び彼を便儀する背後勢力こそ第一次世界大戦の責任を負ふべきものであることが驚くほど明確に浮現として來る。

次に起る疑問は、如何なる理由でこの人物が今まで全歴史を通じてアメリカは勿論、彼自身に對しても何れ危害を加へなかつた一國に對しかくも狂信的な敵性を抱くに至つたかといふことである。この一國即ちドイツのアメリカに對する態度に關しては次の如く斷言出來る。

第一に、ドイツこそは恐らく、南北兩米大陸に於て未だかつて一箇所も領土を創有せざりしは勿論、政治的にも何ら活動を起

した事がない唯一の國家である。況んやアメリカ移住のドイツ人は種族的に備いたのであつてアメリカ大總統にアメリカ合衆國はこれと協力しながらただ利益のみを得たのである。

第二には、ドイツ國は合衆國建國以來現在に至るまで一度として政治上非友誼的態度——況んや敵性態度——を採つたことがなく、其の多數の皇子連の血を以てアメリカの防衛に協力して來たのである。

第三には、ドイツ國は未だ嘗て合衆國を敵とする戰爭に自動的に参加したことがない。寧ろアメリカこそ一九一七年には戰禍をドイツに及ぼしたのである。然もその理由たるヤルーズエルト現大統領が此の問題檢討のため自身で設立した委員會によつて餘すところなく明かにされたものである。一九一七年のアメリカ参戰の理由が専ら若くは少數の資本主義的利益に基いたこと並びにドイツとしてはアメリカと競争する對國など毫も有してゐなかつたことを最も完全に認めたのが意外にもアメリカの参戰理由を解明する爲に設立された、この調査委員會であつた。それでなくともアメリカ民族とドイツ民族との間には領土的又は政治的性質を帯びたものにして、およそ合衆國の利益は素より、況んや生存を脅かすが如きものについても毫も對立は介在しないのである。成るほど國家形式の相違といふものは常にあつた。然し乍ら斯くの如き相違は一般に諸民族生活に於ける敵性の原因とは解し得ないのであつて一國の國家形式が必然に附與された自己の國境の疆外で他國の國家形式を侵犯しない限りは斯くの如き相違點は敵性の原因ではない。

そもそもアメリカなるものは廣汎な全權の賦與された大統領の指導する共和國なのである。ひるがへつてドイツを見るにドイツはかつては限定されたが支配して來た君主國であつたが其の後權力なき權力民主國となり、現在は強大な權力により指導される一

國の共和國なのである。此の二つの國家の間には且つ太宰が横たはつてゐる。資本主義的アメリカとボルシェヴィズム的ソ連との相違は當然——蓋し各自國の主義概念が少くとも眞實を包蔵してゐるならば大統領が支配するアメリカと總統が指導するドイツとの相違よりは遙に大きくなければならぬ筈である。

然るに茲に否定し得ぬ一つの事實は、ドイツと合衆國間の二つの史的戦争が—その同一勢力の發揮しがあるにせよ—終結二人の合衆國の人物、即ちウイルソン大統領とフランクリン・ルーズヴェルトにより熾きつけられたといふことである。ウイルソンに關する批評は歴史自らがすでに鮮明に物語つてゐる。彼の名は各時代を通じて最も低劣な食言と切つても切れぬ縁を有してゐる。彼の總統は所謂敗戦國は素より戰勝國さへその民衆の生活を混亂せしむるに至つた。ウイルソンの食言だけで持ち上げたヴェルサイユ條約は幾多國家を分裂に導き、文化を毀滅し、あらゆる國家の經濟を崩壊せしめた。然かもウイルソンの背後に、これに關心を寄せつつある財閥の一民が控へ、これが此の小兒癡神症の教唆を行使しつゝアメリカを戦争に導き立て、巨利を擧げてゐたことを我々は今にして知つたのである。

ドイツ民族はかつて一度は此の人物に信託を寄せたがこれが却つて仇となりドイツ民族は嘗てその經濟的、政治的生存の根據と云ふ代價を拂つたのである。然るにかりした數々の苦い經驗に性こりもなく復たしても新現の大統領が現はれ、戦争を勃發せしめ何よりもドイツに對する惡意を戰艦を切るまで高めることを以て己が唯一の使命と心得てゐるのは何故であらうか。

ドイツに國民社會主義の勃興を見たのはルーズヴェルトの合衆國大統領當選と同一年であつた。茲に於てか今日の歐戰の原因と見做さるべき點を總括するのが要である。

それには先づ個人問題に纏れざるを得ない。余はルーズヴェルト大統領の抱く人生觀なり。人生に對する態度と。余のそれとの間には大きな間隙があるのを餘りによく知つてゐる。

而ちルーズヴェルトは富有の豪族の令息として生れ、然も生まれながらにして家柄師統とが民主主義國にあつて仕々たる體格と出世とが保障された人種の階級に關してゐる。

其れにひきかへ余自身は貧しい取るにも足らぬ家に無々の贅をあげたのであつた。余は目に餘る辛酸をなめ努力と勤勉によつて前途を切り抜かなければならなかつた。

世界大戦が勃發するやルーズヴェルトはウイルソンの託命を受けつゝ國にかくれて、然も戰時成金の雰圍氣を味はひながら戰争を體驗したのであつた。彼は従つて一方が善戦を喫しつつある時、他方が巨利を擧し、一方がこの他方に屈服するといふ民族と國家間の戰爭中快適な半面だけより知らない者である。其の當時の余の生活といへばこれとは全く正反對であつた。余は決して厭史を作り、況んや金を作る一味の如きものには關してゐなかつた。否余は實に命令を實行する部屬に關してゐたのである。

余は戰時の四年間を一兵卒として専ら義務の完遂に勉めつつ船中に過ごし、やがて歸還した時には一九一四年出征當時のそのまゝの無一文であつた。余がまた更に何百萬といふ味方とも運命を分かち合つた。これに反しフランクリン・ルーズヴェルト氏は數に所謂上層數萬の一味と運命を分かち合つたに過ぎないのである。

ルーズヴェルト氏が戰後、早くも金融投機にその才能を磨き上げてインフレーションと個人の困苦を善用しつつ私腹を肥やしてゐたのに對し余は當時數十萬の若輩と共に働つける身を群衆病院の一隅に横たへてゐたのである。更にまたルーズヴェルト氏が鹿

才にたけた合法的に選挙された政治家の出世街道を歩歩してゐたのと事變り其の當時の余は一介の無名人として地上かつてなき不遇を加へられた一民衆の復興の爲に死闘してゐたのであつた。

思へば似寄りもつかぬ二人の活き方である。

即ちフランクリン・ルーズヴェルトが合衆國の首班に列せられた時置は資本家によつてすつかり懷柔しつくされた政黨の候補者で黨に利用されてゐたのだ。而して余がドイツ國の首相に就任した時余は自ら創建した民族運動の指導者であつたのである。ルーズヴェルト氏を支持せる勢力と余がドイツ國民の運動と又余の最も純潔な内心の確信に基いて黨派を断してゐた勢力に他ならなかつた。新規の米大統領が驅使してゐた所謂「フレイントラスト」なるものは余がドイツに於て人氣の蓄生學的現象として黨派を目指し且つ漸く公的生活より退却し始めたところの國民層により結成されてゐたものである。

然し他方余と彼とは僅かながら共通な運命にもあつた。フランクリン・ルーズヴェルトは民主主義の影響を受けてアメリカの經濟が衰微してゐる時政權に就いた。

而して余も亦民主主義のためにドイツが全く瓦解せんとした一歩前にドイツ國指導の衝に當つたのである。當時アメリカ合衆國は千三百萬の失業者を有しドイツは七百萬の失業者と更に七百萬の半失業者を抱いてゐたのである。この兩國とも政府の財政は破綻して一般の經濟生活は益々低下してその止まることを知らぬ有様であつた。

この時アメリカ合衆國及びドイツに於いては後世をして何れの理論が正當なりや否やにつまづかせる經濟的理論を容易に下さしむる一の情勢が展開したのである。當時ドイツは國民社會主義政權の指導の下に生活、經濟、文化、藝術等が驚異的向上を遂げたがこれに

反し、ルーズヴェルト大統領は自國內の僅かな改良さへ成し遂げ得なかつたのである。

然し斯くの如き業績は一平方キロメートルにつき斯く十五人の人口密度を有するアメリカ合衆國に於ては一平方キロメートルの地域につき百四十人の人口を包含するドイツよりも遙に容易に遂行され得る筈である。

アメリカで經濟的繁榮を招來し得ぬのはこれは亦配賦の意志が間違つてゐるか或はその術にある指導者が全く無能であるかの何れかに歸するものである。

ドイツは僅々五ヶ年の間に諸經濟問題を解決し又失業問題を打開した。

この時代にルーズヴェルト大統領は自國の國體を極度に壓服せしめ、經濟を一層混亂せしめ又失業者數をも減少し得なかつたのである。然しながらこの人物が我を依頼した吾輩のこの人物を押し立てた者共はユダヤ人として只國家腐敗の時のみ利益を受け、國家腐敗には應じて反對する分子に屬してゐることが思ひ置れば、斯くの如きルーズヴェルト政策が不成功な所以は何ら不思議ではない。國民社會主義ドイツは社會主義を標榜したがこれに反してルーズヴェルトのアメリカに於ては我々は眞實の腐敗を遂げたのである。この男の所謂「ニュー・デイル」立法は開きであつた。然かもこの男のなした失敗の中で最大なものである。「ニュー・デイル」といふ平和時の經濟政策が實現されたならば如何にルーズヴェルト大統領が腐敗に功であつても早晩行きつまつて了つた事は明瞭である。ヨーロッパの國ならばルーズヴェルトはきつと國家財政浪費擴張の罪で裁判所に召喚されたであらう。然かも市民裁判所で憲法違反の罪で投獄は免れなかつたであらう。(喝采)斯くの如き裁判官はアメリカに於ても亦多數の名望ある人物の揃くところである。

こゝに於てこの人間に對し海威的反動的の聲が沸き騰つた。これが爲め彼はその内政に對する一般輿論の關心を對外に向つて外らしてこそ始めて自身が救はれると悟るに至つた。これに關してポーランド公使ポトキのワシントンからの報告を檢討するのは一興である。ポトキはルーズヴェルトがその經濟上の所謂「骨牌札で出来た家」が瓦解の危機に瀕してゐたことを熟知し、且つ如何にしても外政的協同を必要としてゐた點を再三指摘してゐる。ルーズヴェルトは彼を取り替へユダヤ人方面によつて元氣づけられ、強硬になつたのであるが、このユダヤ人側はアメリカに於ける獨逸軍閥の復讐を利用して益々反ユダヤ的になるヨーロッパの國々に對し第二のブリム（註）を催す體質を促へ得ると思つてゐたのである。此の男の周圍に群をなして集まり、しかも此の男も手を差延べた者は全く狂信的に惡意を抱くユダヤ人そのものであつた。斯くして紛争を誘發するか或は既任の紛争を激化し如何なる場合でも紛争が平和的に解決されるのを妨害せんとする意味に於いてルーズヴェルトの影響力が益々効力を絶したたのである。この男の年來の唯一の希望は世界のどこかで最も好むところはヨーロッパで紛争が起ることであつて、この紛争は紛争國の一に對するアメリカ經濟的責任を通じ、アメリカをそれに近寄らしめ、これによつて國民の關心を對内的經濟政策の實施から對外に外らされるに適當な政治的利害關係のもつれ合ひを作る可能性を興へるものである。

此の意味に於て彼のドイツ國に對する行動は時に氣鬱するものがある。一九三七年以降彼は數度の演説を行つてゐるが、その内に特に華力であつたのは一九三七年十月五日のシカゴに於ける演説である。これらの演説でこの男はアメリカ輿論をドイツに對して計實的に接近してゐるのである。彼は所謂全體主義國に對し一種の機嫌をなすと唱へたのである。

ルーズヴェルト大統領は斯くの如く益々憎悪及び接近政策の強化を實行しつゝ最近再び傳言的聲明を發表して駐米アメリカ大使を

召喚した。魯米爾兩國關係は僅かに代理大使によつて結ばれてゐる。

ルーズヴェルト大統領は一九三八年以來ヨーロッパの建設政策に對する凡ゆる可能性を計量的に且つ故意に阻止せんと企てゐる。彼はその際他國に向つて平和に關心を有すと偽り、然も平和的協調政策を遂行するの用意ある國に對しては借入金の際金源を壓迫または貸金停止等の手段により傾倒するのである。(註、ユダヤ人の復讐に成功した時の祭)

これに就いてはワシントン、ロンドン、パリ及びブリュッセル駐劄のポーランド大使からの報告によると驚く可き事實が判明する。一九三九年この男はその擴張野望を強化し始め、歐戰に於いて全歐主義諸國に對し戰爭以外の凡ゆる政策を遂行すると恐嚇した。

彼は他國がアメリカの問題に干渉せんと企て且つモンロー主義の維持を切つてゐると絶えず主張してゐるにも拘はらず一九三九年以降アメリカ合衆國大統領には何んら疑われない中央ヨーロッパの問題に容察してゐるのである。第一には彼は斯くの如き問題を理解してゐない。第二には假令彼がこれを理解し又その史的結束を洞察してゐるとしてもドイツの元首がアメリカの情勢を判斷し又はこれに對する意見を發表する權利を有しないと間接に彼も亦中央ヨーロッパについて世話を焼く權利がないのである。(獨逸)否ルーズヴェルト氏は更に前進した。彼は凡ゆる國際法上の規約を蹂躪して彼の氣に入らぬ政府には承認しないとか、新秩序を認めないとか、又既に瓦解した政府の代表はそのままにするか或は合法的政府に任命するかを聲明してゐる。否、遂に彼は外國の領土を露骨に占領する權利を得る様な條約を斯くの如き政府の代表と締結するに至つたのである。一九三九年四月十五日にはルーズヴェルトは余順にムツソリーニ首相に催請狀を送したがこれは地理的及び政治的無知識の混合した一定の金持階級の高價不逞

を發表してゐるもので、しかもこの催告狀によつて我々は聲明書に發表し、どこかの國々と不可侵條約を締結せよと要求されたのである。但しこれらの國々の大部分は大體自由を有しなかつたのである。何故かと云ふに彼等はルーズヴェルト氏の同盟國に合併されたか或は保護國に輸入されたものである。

讀友諸君！ 諸君は當時余がこの人好きのよい男に丁重で然かもはつきりした返答をしたのを今尚ほ御記憶のことと思ふ。まあしかしこれが少くとも數ヶ月間この憤激な聲明書發表者のお喉りを封じ込んだわけである。

彼で彼の代りに登場したのが嫁控すべきルーズヴェルト夫人である。彼女は我々の住んでゐる様な一の世界に生活するのを拒否した者である。これは少くとも理解し得る。その理由は我々の世界は歐羅巴やインヂヤの世界ではなく實に動勢の世界である。この夫人の専主はしばらく離棄後、一九三九年十一月四日に中立法の改訂を執行しドイツの敵國國へ武器を一方的に供給するために今や武器輸出禁止を廢止したのである。

假は次いで軍艦でも殆ど同じ様に又離棄上の纏れ合つた關係といふ廻り道を通じて早晩効果を生ずる利害關係を妥協と結成し始めてゐる。既に同月彼はに命ポーランド人の一隊を所請し帝政府として認めたがこの政府の唯一の政治的基礎は何であるかといふとワルシャワから持ち出したポーランド金貨の二、三百萬に過ぎない。又既に四月九日には彼は更に進んでドイツの干渉を阻止するといふ白々しい口實を以てノルウェー及びデンマークのクレディットを閉鎖したのであるが然し師へはデンマーク政府にしてもその資産運用についてはドイツからは眼中に置かれてゐない。況んや管理されてゐないといふことは彼の充分承知なところである。種々な帝政府の他にノルウェーの亡帝政府も亦彼に承認された。一九四〇年五月十五日にはこの外にオランダ及びベルギーの

亡命政府も承認されて同時にオランダ及びベルギーの資産が没収されたのである。然しこの男の眞の氣持が現はれてゐるのは何といつても六月十五日附のフランス首相レノー宛の書翰である。この書翰で彼はレノーにフランスが對獨逸戰爭を斷行すればアメリカは對獨逸援助を倍加するであらうと告げてゐる。彼は又戰爭の長期化を恐むこの意向を特に強調する爲アメリカ政府は占領の收獲、換得すれば實てドイツから剩餘した地域の返還は承認しないであらうと聲明した。アメリカ合衆國大統領がヨーロッパに於ける境界を定むるや否やはドイツ政府の知つたことではない。ドイツは又こんなことには將來も如何ら斷續を感じないと余はここに諸君に申上げることが要しない。

余は戰に平和の理想を儆り又永久に戰爭のみを繰返すこの男の獨斷行爲を特に明かにせんためこの場台を引用したに過ぎない。アメリカが自ら他國の取巻を操縦しなければ何人もアメリカを攻撃しないのであるからヨーロッパに平和が招來された場合はアメリカの軍備擴張に何千萬ダラーを費したことが全く詐欺と知れるといふことに今や彼は不安を感じて來たのである。

一九四〇年アメリカ合衆國大統領はフランス金貨の保護を指令したが、これは外面はドイツがこれに手を延べるのを阻止するが目的であると圖つてゐるが事實はこれをアメリカ獨逸を手傳はせてカサフランカからアメリカへ輸送するためである。

一九四〇年九月にはルーズヴェルトは更に戰爭に接近して來た。まづ彼は米艦隊に關する五十隻の驅逐艦を英海軍に譲渡した。何れは後世に明らかとなるであらうがその代價として彼は北米及び中米にある英領土の軍事基地を受けとることになつてゐる。即ちこの點についてはドイツに對する憎惡を有してゐながら、他方獨逸の時期にある英國を出來るだけ實質にまた危險なく斷本し得ると云ふ見解がはたらいてゐるのである。

英國にアメリカからの補給品を爲す現金で執拂ふ能力がないためにルーズヴェルトは米國民に對し武裝貿易法を押しつけたのである。かくしてル大總統は武裝貿易法によつて補助國の執配權を得を企てたそれはこれら諸國の防衛がアメリカにとり生存上重要であると思はれたからである。その後ドイツが彼の總領してゐた計畫を何ら野戦しなかつたのにこの人物は一九四一年三月更に一步を進めたのである。

一九三九年十二月十九日にはすでにアメリカの巡洋艦はドイツ汽船「コロンブス」を安全水域内でそれとなく英軍艦に押しつけたのである。それで同艦は沈没せざるを得なかつた。同日米軍はドイツ汽船「アラウカ」の拿捕に成功した。一月廿七日に米巡洋艦「トレントン」はドイツ汽船「アラウカ」「ラブラタ」及び「ワンゴニ」の移動を敵軍に通告して國際法を侵犯した。一九四〇年六月二十七日に米國諸港に於ける外國商船の自由通過を制限して國際法に完全に違反する事に出たのである。

一九四〇年十一月にドイツ汽船「フリギア」「イタルワルト」及び「ライン」はアメリカ海軍に追跡された結果英海軍の手に落ちないために敢て自沈するに至つた。

四月十三日には西望に於ける英軍艦隊に物資を供給するため米國船舶に對し北海の通過解放が行はれた。三月には凡てのドイツ船舶が米當局によつて押收された。かくしてドイツに對する船舶は最も不當な方法によつて取扱はれたのであつて、カナダの海軍所から船出した二名のドイツ士官を同様に國際法の決定に反して捕縛しこれを英當局に引き渡した程であつた。

その四月にはルーズヴェルトは依て二十條を英國に課渡し、又英國軍艦は引き續きアメリカ諸港で停泊されてゐる。五月十二日以来は英國援助のため航行するノルウエー汽船が國際法に違反して武裝を懸され又監禁されてゐる。更に六月四日にはアメリカ

の軍艦がグリーンランドに到着した。

六月九日になるとルーズヴェルト大統領の命令に基きアメリカ海軍がグリーンランド近海でドイツ潜水艦一隻を撃沈を以て撃破したといふ英海軍報が置された。

七月十四日には再び國際法を無視して、合衆國に於けるドイツ資産の凍結が行はれてゐる。六月十七日に及んでルーズヴェルトはドイツ領事の引揚げ、及び領事館の閉鎖を要求した。更にルーズヴェルト大統領はドイツ通信社「トランス・オツエアシー」社、ドイツ領事館所及びドイツ國有鐵道支店等の閉鎖を要求した。七月六日より七日に至る間、ルーズヴェルト大統領の命令に基きアメリカ海軍はドイツ領の戰艦區域内にある氷島の占領を遂行した。

斯くしてルーズヴェルト大統領は、第一にはドイツを結局は戦争に導き、第二にはドイツの潜水艦をあたかも一九一五年から一九一六年に至る迄の如く戰艦的に無効にせんと欲してゐるのである。

これと時を同じうして彼はソヴェート聯邦に援助の約束を與へた。七月十日には突如としてノックス海軍長官が、合衆國は極端に窮乏する露國命令を受けてゐると發表した。九月四日には、合衆國海軍「グリーア」艦は、同艦の受けてゐた命令に従ひ大西洋でイギリスの飛行隊と協力し、ドイツ潜水艦に對抗して行動した。

五日後一隻のドイツ潜水艦はアメリカの驅逐艦がイギリス護送船隊に護送船として加はつてゐる事實を確證した。翌日には九月十一日、ルーズヴェルトはかの演説を行ひこれにより極端船艦のすべてに對する露國命令を廢止し且つ新たに發令した。

九月二十九日には合衆國海軍がグリーンランド東方に於いてドイツ潜水艦一隻に徹夜攻撃を加へた。十月十七日には英國海

送給艦の機軸に當つて航行中の合衆國艦「ガーニイ」號が、

三三

又もやドイツ潛水艦一隻に衝突攻撃を加へ、また十一月六日には
海に合衆國海軍は國際法に違反してドイツ汽船「オーデンヴァルト」號を拿捕し、これを米國の港に曳航してその乗組員を擄禁に
附した。

余はこの所謂大總統と稱する男の余に對する侮蔑的人身攻撃や無類千萬な仕打ちを、當時は取るに足らざるものとして看過せん
とした。彼が余を呼ぶにギヤングの辭を以てしたことは、この眞意が、ヨーロッパで出来たものでなく、又ヨーロッパでは左様な
眞意が存在しないで、寧ろ合衆國の所産であるだけに余は一向平氣である。

然しこれは別としても、大體余はルーズヴェルト氏に侮蔑されるわけがないと思ふ。何故なれば余は彼を以て、實てのウッドロ
ウ・ウィルソンと同様精神病者だと看做すからである。

この男がその味方のユダヤ人と共に年來同一の手を用ひて日本に對して戰つてゐることは、我々の知るところである。余は此處
でそれらの手段について語るには及ばない。此處でも同一の方法が用ひられるに至つた。この男は最初に先づ戰爭を懸しかける、
それからその腹内を探知し、斷手な主張を持ち出し、それから據懸すべき通り方でキリスト教的偽善の雲の中へ身を隠し、かくて
彼々ながら實際上に人雲を戰爭へ引き込むのであるが、古くからのフリーメイソンの加盟員として其の際自己の行爲の眞實を露せん
が爲に神を騙人に召喚することを忘れないのである。

諸君は一の國家が今や遂に斯くの如くにして眞理と權利を史上極めて不磨きにも適用した事實に對し第一番目に抗議を發したの
を二種の精神だと感じたであらうと余は信ずるものである。この抗議はこの男の豫て算んでゐたもので國つて彼は今はこれにつ

ては驚くに當らないのである。

日本政府が此の詐稱者と何年となく商議を重ねた事、遂に此の上かゝる侮辱的弄弄を徹らすするに至つたことはドイツ民族及び悉くは全世界の君子をも驚かして我々の良心より諒とするところである。

ルーズヴェルトの背後にある勢力が如何なるものであるかは我々の知る所である。それはかの永遠のユダヤ人であつてこの永遠のユダヤ人たるや我々總ての者がソヴエート・ロシアに於て覇權を以て勝め、且つ壓制せざるを得なかつたところの事態を我々に對しても執行すべき時機到來せりと北鬼笑んでゐるものである。このユダヤ人の地上に於ける榮耀なるものを我々は今や實地に載ることが出来た數百萬人のドイツ軍將兵は、この國際的ユダヤ人が人命と財貨との總てを犠牲し盡した一國の貢納を各自の腹を以て儲める事が出来たのだ、かういふ事は悉く甘樂國大統領などの知りたいたと思はぬところであらうがそれこそたゞ彼の精神の痼疾を暴露するだけのものである。更に角これが彼の全戰爭の目的だといふことは我々の知るところである。即ちドイツがよしんば日本と同盟を結んでゐなかつたとしても一國一國と次から次を襲滅するのがユダヤ人と彼等のフランクリン・ルーズヴェルトの意欲であることは明かである。ところで今日のドイツ國は實てのドイツとは何ら共通のものをもつてゐない。

歸つて我々は、この戰爭犠牲者が數年來達成せんと企てゐたことを、今度は我々の側からも行ふであらう。我々が日本の同盟國だからといふ理由だけではなくて、寧ろ蘇伊兩國の現下の指導部が、この歴史的時期こそ彼等國民の英雄が悉くは永久に死んで決せられるであらうといふ事を理解するに足る洞察と能力を有してゐるからである。この別世界が我々に對して企てゐることは、我々には明瞭である。彼等は實ての民主主義的ドイツを眞に陥れた。彼等は現在の國民社會主義的ドイツを廢滅したいと思

つてゐる。若しルーズヴェルト氏やチャーチル氏が、やがて新しい社會秩序を樹立する限りだと宣明するならば、それは本質の理
 解がインチキでない毛生る事客にすゝめるやうなものである。(註天)社會的に最も立ち遅れてゐる國々に住んでゐる兩氏の
 如きは、戦争をけしかけるなどといふ大それたことをする代りに、各自の國の失業、貧乏等のために考へてでもやる方がましであら
 う。彼等は各自國內に、食料品分配の意味で、折り甲斐がある國々と善隣とをもつてゐるのだ。ドイツ國民としては、チャーチル
 氏からもルーズヴェルト氏からも、乃至はイーデンなどからも、喜望金など恵んでもらう必要はない。ドイツ國民の欲するのはた
 ら自己の權利のみである。(註米)而してこの生存權は、千人のチャーチル乃至ルーズヴェルトがゐてこれに反對の謀を企てよ
 うとも斷毫確保されるであらう。ドイツ國民は、殆ど二千年に亘る歴史をその背後に有してゐる。この國民は長い期間に於いて今
 日はど一致團結したことは未だ有てなく、また斯くの如きは國民社會主義運動のお説であつて今後の金將來に亘つても在り得ない
 ことであらう。だがこの國民はまた恐らく斯くも愚昧であつたことは有てなく、また斯く慾望に關ちてゐたことも稀であつた。そ
 れ故に、余は今日米國代理公使に觀察を渡して彼に次のことを知らしめた。即ち無制限の世界支配的獨裁を目標せるルーズヴェル
 ト大統領の政策が、益々擴大の一端を辿る間に北米合衆國はイギリスと歐亞して、獨伊兩國國民、及び日本國民に對しても、彼等の
 自然なる生活維持のための諸問題を解ふため、如何なる手段をえらぶことをも、斷絶せざるに至つたと。英米兩國政府は、これに
 よると、既に現在に於てのみならず、むしろ今後の金將來に亘るよりよき世界新秩序樹立のための一切の正當なる修正に反對した
 わけである。

問題以來米國大統領ルーズヴェルトは、益々一戰の重大なる國際法侵犯の罪を犯して來た。獨伊兩國國民の財産に對する數々の

不法侵襲は抑止その他に依る威嚇を伴つたばかりか、それ等の國民の一身上の自由をも勝手氣儘に制するといふ如き不法行爲を敢へてしたのである。合衆國大統領のさなきだに益々尖鋭化する政策振りには、遂に一切の國際法上の規定に反して、我が米國海軍に向ひ、露伊の國籍を有する船舶は何處に於いても見付け次第に襲撃し、没収し、且つ撃沈するやうにとの命令を下すまでに立至つたのである。米國の國勢大巨連は、かやうな犯罪的な道り方によつて、ドイツ潛水艦若干隻を既に撃沈したとまで傳言した。露伊の多數船舶は米國巡洋艦の襲撃を受けて拿捕された上に、その非難買たる乗組員は殺戮せられ、且つ投棄せられたのであつた。それどころか、更にアメリカ政府では何等の公式否定も行はれずして、ルーズヴェルトの過大な計畫たるものが米國で公表せられるに至つたがそれは遅くとも一九四三年には露伊兩國を武力によつてその本國自體に於いて殲滅せんとするものである。

これがため、數年來のルーズヴェルト大統領に依る痛々しい露伊行動にも拘けらず、露伊の擴大を防ぎ、合衆國との正常な關係を維持せんとする、露伊兩國の望みなき忍耐を實踐するに足る努力は、全く水泡に歸してしまつたのである。

茲に於て、露伊兩國は、遂に一九四〇年九月廿七日の三國條約の規定に基き日本と提携へて、それら三國とその國民とを防衛し且つ、それに依つてその自由と獨立とを維持せんがために、アメリカ合衆國と英國とに對し、戦ひを開始するの止むなきに至つたのである。仍つてこれら三國は次の如き協定を締結し、且つ本日ベルリンに於いてこれが調印を了した次第である。

アメリカ合衆國及び英國に對する共同の戦争が完結せられるまでは、干戈を收めざるの態乎不動の決意をもつて、大日本帝國政府、ドイツ政府及びイタリー國政府は左の諸規定を協定せり。

第一條 日本國、ドイツ國及びイタリー國はアメリカ合衆國及び英國により強制せられたる戦争を其の終り得る一切の効力手段

をもつて勝利に終るまで進行すべし。

第二條 日本國、ドイツ國及びイタリヤ國は相互の完全なる諒解によるにあらざればアメリカ合衆國及び英國の何れとも休戦又は講和をなさざるべきことを約す。

第三條 日本國、ドイツ國及びイタリヤ國は戦争を勝利を以て終結したる後に於ても一九四〇年九月廿七日その締結したる三國條約の意義に於ける公正なる新秩序樹立のため最も密接に協力すべし。

第四條 本協定は署名と同時に實施せらるべく且つ一九四〇年九月廿七日の三國條約と同一期間有効たるべく締結國は右有効期間の満了前適當なる時期に於て續後^{つぎ}に於ける本協定第三條に規定せられたる協力の効力に就き諒解を續くべし。

眞實諸君！

一九四〇年七月に行つた余の最後の平和提議が拒否されて以來、我々はこの戦争は最後まで闘ひ抜かねばならぬといふ點を十分に知つてゐる。故にアングロサクソンの、ユダヤ的資本主義的世界がボルシェヴィズムと統一戦線を形成してゐる事實は、我々國民社會主義者にとつては何ら奇異とするに足らない。我々はドイツの國內においても彼らが常に同様の寄合世帯を爲しつゝあつたことを認識した。しかし我々は國內に於けるこの戦争を成功裡に遂行し十四年間に亘る權力獲得の死闘の後に遂に我々の敵を殲滅したのである。

ドイツを空落の崖から救ひ出さんと決意した時余は未だ名もなき一介の兵士であつた。この戦争が如何に困難であつたかは多くの諸君が知るところである。

爾か七人の黨員によつて開始されたあの小さな運動から一九三三年一月三十日の責任ある政府結成に至るまでの道は實に奇蹟的なものであつた。たゞ神の導理のみがその奇蹟によつてこれを可能ならしめたものと考えるのである。

今日余は世界最強の陸軍、最大の空軍及び海軍を統率してゐる。余は余の背後、余の周囲に一致團結せる黨のあることを知つてゐる。この黨と共に余は大をなし、黨は余を通じて大を爲したのである。余の目前にみる黨は廿年來周知の仇敵である。しかし余の前途に横たふる道は過去に於て踏んで來た道程と比較すべくもない。ドイツ國民は、今やその生存の決定的瞬間に立つてゐることを認識してゐる。數百萬の兵士は最も困難なる條件にあるに拘はらず從順忠實にその義務を遂行してゐる。又數百萬のドイツ國民及び労働者並に婦人は、工廠に警察所に田畑に各々團に付して銃後の爲にパンを作り、戦線の爲に武器を製作してゐる。更に我國と盟を結べるものは我々と等しき奇蹟を抱き、我々と同じ仇敵を持つ強力な國々である。アメリカの大統領とその金權主義の一派は我々を持たざる國と命名した。

これは正しい。しかし持たざる者も生きんと欲するものであり、又生くるために僅かに所有してゐるもので、持てる者若しにより奪はれんとするを絶對的に阻止せんとするものである。

黨員諸君！ 諸君の知らるる如く、余は一度始めた戦争を最後まで成功的に闘ひ抜かんとする斷乎たる決意を有するものである。諸君は皆余がかくの如き戦争において何事をも恐れず、必要とあらば如何なる抵抗をも打破する意思を有することを知つてゐる。

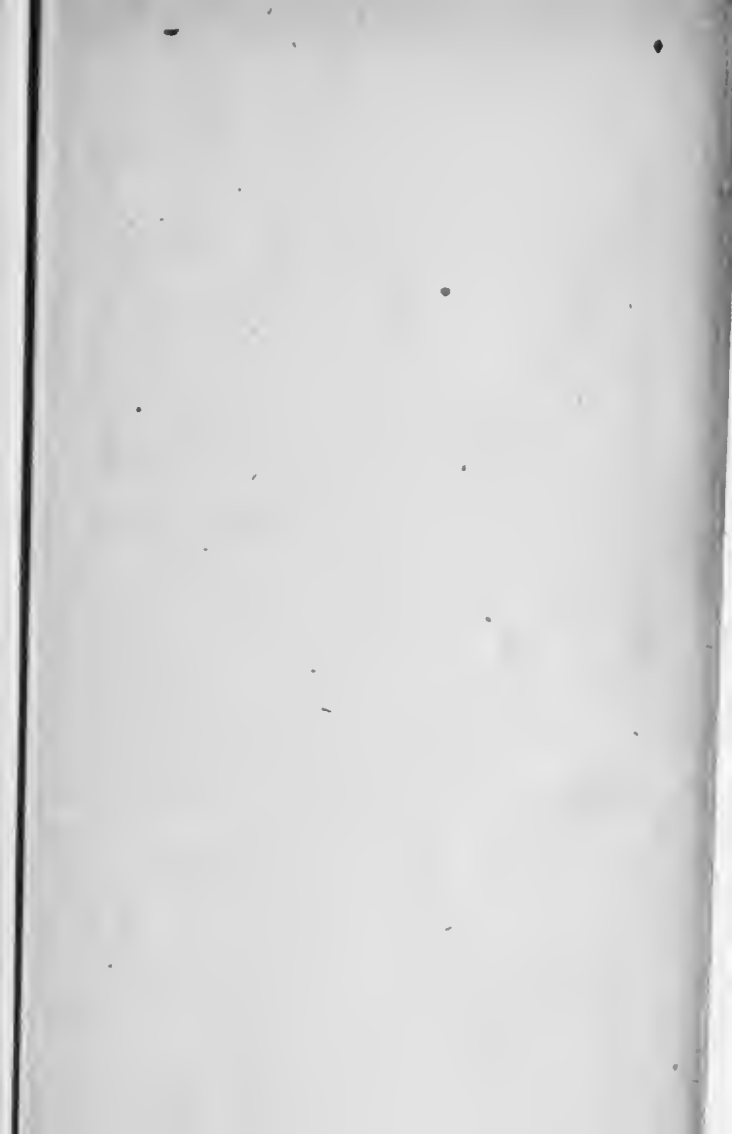
余は諸君に對し一九三九年九月一日の祝詞において、今次の戦争において兵器の力も時の力もドイツを屈服せしめ得ないであら

うと保護した。余は更に余の艦に對し、ひとり兵力や時間が我々を屈服せしめ得ないばかりでなく何らの内面的感服も、只實に義務を遂行せんとする我々を動搖せしめ得ないといふことを保護し得るのである。若し我々にして戦線に在る兵士の犠牲と彼等の爲せるところに思ひを致すならば、戦後の犠牲の如きは全く論ずるに足らない些少なものである。しかし、既に我々により前の世代に、ドイツ國民の存立と偉大のために擧げた凡ゆる人々の數を考ふるならば、我々はここに初めて我々自身の双肩にかかる義務の餘りに重大なるを自覺するであらう。

しかし乍ら、誰かこの義務を回避せんと欲する者あらば、彼は我々に交つて國民の一員たりと稱する權利を有しない。權力獲得の爲の闘争に於いて、何等逃避することなく闘争たる態度を採つて來たと同様に、我々は今、我ドイツ國家維持の闘争に於いても些かの假借なく、毅然たる態度に出るであらう。我國民の父たり子たる最良の男子が多數戦野に押れてゐる時、戦後に在つて戦線の犠牲を水泡に聞せしめんとする如き生活は、誰一人としてこれを考ふことを許さない。苟くもドイツの戦線に在つて戦線の犠牲を求め、又戦後の働きを妨害する試みが行はるる限り、如何なる假面を被らうとも同様である。かく如き罪ある者はすべて死罪に處せられるであらう。只興るところは、戦線の兵士は最高の名譽の中に、この犠牲を擧げに反し、名譽ある犠牲を水泡に聞せしめんとする者は戦線の中に死んで行く賊である。

我々の敵は思ひ違ひをしてけならぬ。有史以來二千年の長きに亘り、ドイツ民族が今日程強固に一致團結したことは嘗てないのである。即ちこの數年間我々に對して大なる惡みを與へ給ふた。我々はかくも偉大なる民族の一員たることを許し給ふた即の道理に對しては、國を棄れて感服せざるを得ない。然り！我々は今ドイツ民族の過去及び將來に鑑みてドイツ史上に不朽の名をも止め

得るの樂を有することを共に感ずるものである。



フオン・リッベントロップ獨外相の演説

ヨーロッパ及び東亞建設の戦ひ

藤下、諸君、實業諸子！

余は茲に同一日に對し本日(今日)の催しに御來集下されたことを心から感謝する。此の催しは目下柏林に居られる諸侯及び元首相、
 實、軍部の要人、新聞、工業界の代表、並に民間有力者を外來の我等の貴賓に紹介するの機會を作らなため開かれたもので
 ある。余は茲に特に内外新聞社、放送局代表者諸氏にも衷心歡迎の意を表する次第である。

諸君 われわれは頃日來、歐羅巴諸國の多數の外務大臣、東亞友好諸國の代表者、發言すれば伊太利、大日本、西班牙、葡萄牙、
 西班牙、葡萄牙、勃牙利、クロアチア、スロヴァキア及び丁抹の代表者を會議場に歡迎し得たのを無上の光榮とする。後、中華民國を加へ
 るに至つた、新秩序を希求する、これら諸國の代表者と共にわれわれは昨日コミンテルンに對抗する聯軍な條約を承認した。本條
 約こそはわれわれ諸國を共產主義から完全に救出するまで相互に協力せしめ、然も此の人類にとり恐るべき無情の病魔の最後の種
 源をも根絶せすむば得まいわれわれ諸民族の意を具現するものである。新しきヨーロッパの團結と結成及び他の世界に於ける正
 常な秩序樹立への道を準備するこの特殊な事象に對し獨逸國政府は茲に眞心よりの喜びと満足の間意を表する次第である。
 諸君！ 余はこの機會に今次戰爭の經過と經過につき、また現下の外交問題に對する獨逸政府の見解につき、略か概要を述べた

いと周知。獨逸軍、伊太利、葡萄牙、西班牙及びスロヴァキアの同盟軍及び北歐の果敢なる國民、更に西班牙、佛蘭西、クロアチ
 ア、丁抹、葡萄牙、和蘭及び白耳義義勇軍の英雄的行爲によつて共產主義とボルシェヴィズムの國家的權力は崩壊し、ヒトラー總統
 の言をかりるならば、最早再起し得ざるに至つたのである。偉大なる二人の人物、即ち獨逸のヒトラー總統と伊太利のムツソリー
 ニ首相こそ實に二十年以上この危險を克服し、歐羅巴の觀念と運命のこの最後の瞬間に對し戦ひ勝ち遂に彼らの健全なる國民を
 この恐るべき病魔から救ひ出した其人である。その偉大なる行爲は今日歴史に銘記さるべきものである。この二人の偉大なる偉業

吾は國民社會主義とファシズムの規範と施設とによつて各自國民の存在のための内的な前例を創造した後、第二の道程に入つたのである。即ちそれは外部の世界にある殆ど克服し難いように思はれる敵に對しその國民の將來を保障することであつた。國民の比較的少數より成る採取階級に抑壓され、有産階級の利己主義的な考察によつて支配されてゐる西歐の民主諸國は、狂氣の沙汰たるヴェルサイユ條約の採取條項に驅られて切迫した情勢に立ち立つてもその修正を欲しなかつた。民主諸國は過去に於て世界の物資の分配に際し極少な分配にしかあづからなかつた。希臘、兩國國民の生活の基礎だけでも、即ち毎日のパンを保障せんとしたヒトラース統及びムッソリーニ首相の理屈的な企圖に對してさへ最初より反對したのである。

諸君！

獨逸がダンテツヒの自由投票に基き元來その都市たるダンテツヒ市を獨逸に歸屬せしめ、ダンテツヒ屬地帯に自動車道を建設せんと欲したとの理由で、英國が今次の獨逸を實行する事に出たとは、今日では殆ど信じられないのである。勿論これは一九三九年九月三日英國が對獨逸戰を布告した戰なる表向的新義に過ぎない。

實は當時獨逸世界を制覇してゐた英國の權力者たちは歐羅巴の世話人の如く整頓してゐたのであつて、彼らは獨逸に對して、歐羅巴の大國民たるに相應はしい、或は多少不安のない生活を保障する場所をさへ與へなかつたのである。何故であるか？回答はただ次の數言に盡きる。即ちそれは僅か四千五百萬の英國人に全世界の三分の一を支配せしめ、八千萬に達とする人口の獨逸人には必要缺くべからざる生活費をすら與へないでおかうとする總然たる英國の慣行爲からであり、獨逸人の動機と再興、獨逸の社會的事例に對する英國爲政者共の不安からであつたのである。

獨逸の平等權を認め、かうした兩國國民の同權を基礎として相互的關係の均衡を圖り、延いては剩餘の世界に對する自然的な利益享受の同權を聯絡する代りに、當時の英國の爲政者共は又も獨逸を壓迫し、これによつて自國の不富なる支配權を確保し得るものと信じたのである。

これに反してヒトラー總統は英國に對する誠に寛容及び忍耐そのものの如き態度を以てした。この政策は過去に於て英國が獨逸國民に加へた不當なる仕打ちに比すれば實に雲泥の差があるのであつて、又、ヒトラー總統が當時の決意を斷行する事により兩國の利益を圖るべき獨逸提議を難化する爲に凡ゆる手段を盡さんと希求してゐた點左である。

ヒトラーのこの政策は單に英帝國の海陸兩方面よりする完全なる確保といふ點においてのみならず、更に英帝國の全體士を維持せしめる爲に獨逸の權力を用ふる事も敢て厭するものにあらずとするものであつたが、今もしこの政策が英國に對して如何なる利益を齎し得たであらうかを考へてみるならば、理性ある人間は蓋でも英國の爲政者が如何に盲目であつたかに思ひ當るであらう。

英國の決定的な勢力、就中ユダヤ勢力の意見としては、獨逸は英國によつて興へられた歐羅巴に於ける投機、即ち吾等國民としての役割に満足し、英國側が獨逸國民に適應してゐると考へた生活水準を、それが耐へ得るものであるか否かを問はずして承認するか、或は戰爭になるか、二者其の一なりとしてゐた事實は勿論交渉中の當時にあつても獨逸側の充分知悉するところであつた。

當時の凡ゆる交渉に際しては既に既に戰爭の脅威を仄かすのが英國政治家達が常に用ひた奥の手であつた。余は此の點に關して自分を以て覆人たり得るのである。と云ふのは余はナチス黨政權掌握以來數年間に何時もヒトラー總統の提議を擧げて英國に送いたが、英國人は頗るにも常に之を拒否したのであつて、彼等に取つて最も有利であると見ゆる提議に賛成するであらうとは余は何

時もヒトラー總統に報告しなければならなかつた大罪である。其の罪状は殆ど了解に著しむ程であつた。然し英國人の斯くの如き罪状は反つて英國爲政者の野蠻感情に關する我々の罪狀を強めさせたのである。かかる唯一の有利な機を拒否するのは戦争を決意してゐる露左であると我々は確信したのである。余が「英國事情に精通せず、又、英國人の性質を知悉せざる爲、英國は決して戦争しないだらう」と、ヒトラー總統に報告したと言ひ傳へた説明なる英國議員が果して正しいかどうかには就ては、余は喜んで之を將來の罪狀に要するものである。

然し將來に於ては之れ以外の他の事、もつと重要な事が決定を見るに至るであらう。即ち英國政治家が果して明白なる政策を執つたか否かに就ての判決が下されるのである。余が自から信する所に依れば、これに就ては既に決定を見てゐるのである。當時と今日とに於て既に事情が異つてゐる事は極めて一部の英國人にとつても明白となつてゐる。即ち當時に於てヴェルサイユ條約の改訂と獨逸植民地返還とを認める代價として、英本國及びその世界帝國保全の爲、獨逸と同盟を結ぶと云ふのであつた。處が今日に於ては英國は世界最大の國家面前に對し絶望的に戦はなければならないのである。

戦争の勢と共に英國は、ヨーロッパ諸國をして一國又一國と次ぎ／＼に自國のために闘はせる例の作戦を取るに至つた。而してその先頭を承つたのがポーランドである。もし英國が對ポーランド保護をしなかつたと假定すれば、勿論この國は獨逸との平和的交渉の道を選んだに違ひない。しかし英國、詳しく云へばチャーチル氏はポーランドを煽動して露獨戦争のきつかけをつくるに至つたのである。われわれの後日蘭及んだところによるとチャーチル氏は當時既に自國の首相チェンバレン氏の背後に立つてルーズヴェルト氏と共に彼を監視し紛争に關りたてたのだ。また獨逸は、やはり獨逸と露獨の道を辿つて來たのであつた。

がこの國も英國の命令で動くことになった。露英依存の馬鹿者共乃至強硬者共は、佛蘭西を陥つてここに至らしめたのである。かくてお天の番は露威であり、これに續くものは和蘭及び白耳英であつた。しかし獨逸國防軍は、僅か二、三ヶ月の間にこれらの國々を占領するに成功し、英國は所謂「光榮ある」ダンケルクの撤退を體驗したのである。しかしながら伊太利は、持たざる國に對する持てる國の戰爭に於て、憂慮に立つたのである。

然しそれでも尙ほ英國は動くことを知らなかつた、即ち英國は未だヨーロッパに關連し得られるものと考へてバルカンに歸を附けたのである。樞密院は此の時バルカンの平和維持のため凡ゆる外交的努力と努力を揮つてゐたのである。然し英國はダンケルクの敗戦を肝に銘ずることなく無益にもギリシヤ及ユーゴスラヴィアを自己の利益促進に便役、導人せんと企てたのである。ムツリニ首相は茲に於て此の情勢、並びに之等の國々に依り以前から腐化されてゐた奸計更に非中立的行爲及び伊太利に對抗する軍事援助、英國の地中海に於ける戦争遂行等を正しく認識して、英國の排絶に基く戦争を先づギリシヤに對し敢行し、軍事行動を開始したのである。次いでユーゴスラヴィアが完全に英國側に立ち、且つ英國がその民族的民族をオーストラリヤ及びニュージランドから公然と出動せしむる、樞密院は良好な季節の到来を俟つて、數週間にして歐羅巴のこの部分を一舉に英國人の手から清掃したのである。斯くしてセルヴィアも希臘も亦クレタ島もこの驚くべき英國作戦の犠牲になつたのだ。亞米利加合衆國大統領がこの新現な英國の冒險を再び援助したことはこゝで序でに述べておく。

然し更に則決すべき事は英國が凡ゆる歐羅巴の國を獲得するか、或は自己のため戦争に捲き込まんと企てた事である。にも拘はらず責任を自覺せる歐羅巴の政治家は情勢を遠見し正しく判斷して正當な道を選び、斯くの如き英國の保護提議や他の運動を、

封じたのである。

ところが本國が歐羅巴北部、西部、南部及び南東部に試みた軍事行動は、これまた何らこれを中止せしむるものとはならなかつたので、獨逸チヤール氏及びルーズヴェルト氏を首魁とする合衆國の反動的共犯者は東部に希望を聚がざるを得なくなつた。諸君！余は茲で、共同の所謂解放戦のかの段階に就き述べることとする。この解放こそは他日、必ずや戦争の開始にとつても歐羅巴の運命、ひいては世界すべての文化國の將來にとつても、決定的段階となるものと余は確信するのである。即ち余は茲に就て斷らんとするものである。

先づ最初に一九三六年獨逸が、獨逸民族間に對は且つ安寧の餘地を見出さんと希望して、相互不可侵及び兩國無條件設定の條約に基き、モスカウ政府と同盟を締結せる事實を想起していただき度い。國民社會主義とボルシェヴィズムの間に纏まる對立的世界の對立せる關係上當時總統の心境は此の指圖に出るまでは重々ならぬものがあつたのである。

當時總統はかうした企圖の他に、かうした誤解が國を導き出し、ソ聯はいさほび世界革命の理念を一擧し、徐々に獨逸及びソ聯に隣接する歐羅巴の他の諸國にとり友好的關係となるであらうとの希望を抱いたのであつて、これはソ聯に於ける或る種現象の結果、同地經濟環境に見るも極めて當然なものゝ如く見られてゐた。

獨逸は一方連年の諸聲明を忠實に實踐しつつ一九三九年夏以來對ソ政策の全面的轉換を試みるに至つた。其の間獨逸は専ら總獨逸的獨逸體のみに局限し、偶々侵襲の發生した時も常にソ聯との好意的誤解を招来すべく勵む努力をつゞけて來たのである。獨逸は一切の疑義を未然に防ぎ、あらゆる戦争發生の難然性を排除せんとする企圖を抱きつつ遂に歐羅巴諸國在住の全獨逸市民を

本國へ遷住せしむるまでの措置を取るに至つた。

獨逸政府はこれによりソ聯の獨逸、否、獨逸國に對する態度に適當な修正が加へらるべきものと目じてゐたに拘はらず、事實は甚だしく失策を來した事は御承知の通りである。

一九四一年六月廿二日附を以て外務省よりソ聯政府に手交せる覺書に於て、獨逸政府は全世界に對しソ聯が獨逸の裏を掻いた事柄をまるごとソ聯が一九三九年の認定を以て戰なる積習と同一視せる事實を公表するところがあつた。

スターリンは英國が早晩獨逸を決意するものと豫想してゐた。彼は獨逸と西部民主主義諸國との衝突が長期化し、何れかを勞せずしてボルシエヴィズムの歐羅巴播出を可能ならしむるものと高を括つてゐた。かくあるべきを秘かに期してゐたスターリンは獨逸が佛蘭西を陥り、英軍を歐羅巴より驅逐するに及んで少なからず失策を感じたのであつた。かくてスターリンは突然其の戰術を一變し、英米との協力を戻し、獨逸進駐の準備を急いだのであつた。……當時獨逸外務省は獨逸條約を無視しつゝ共產分子が依然として獨逸切り崩し計、スパイ行為及び破壊工作を遂行せる點と併せて共產インターナショナルがバルカン諸國及び全歐に於て其の宣傳活動を繼續しつゝあつた順手と諸懸念を表現したのであつた。

更にソ聯權力が凡ゆる認定に反し如何にして東歐洲のボルシエヴィキ化を進め北に於ては芬蘭、南に於ては羅馬尼亞の獨立を強要し、ダーダネルス海峡に軍事基地を建設するに對して獨逸の同意を要求し、ヒトラー總統が此の無理な要求を拒否するやソ聯は北冰洋より黑海に至る迄の赤軍を更に濃密に進駐せしめ、遂には我國境は勿論、芬蘭及び羅馬尼亞國境に面し全歐西亞軍力を歐羅巴に向つて西駐せしめた上、ソ聯は最後には其の軍事進軍のみならず外交方面に於ても著々と反歐的態度をとるに至つたと云ふ體裁

を拒絶した。動牙利、洪牙利、羅馬尼亞及び亞爾巴尼亞に於けるソ聯の軍隊は遂にはセルビアへも延びた點も懸念されてゐる。特に當時の獨逸外務省書は左の點を拒絶した。

「獨逸政府の入手した文書に基くと、モスクワ駐在英大使クリツプスは一九四〇年にソ聯を英國の目標とするところに引込まんがため努力し、然も此の努力は大いに成功した」と。

其後、獨逸政府は一九四〇年開會せられた英國下院秘密會議に關する詳細なる文書を入手した。

この文書によれば、英下院が德國敗戦後、戦争の今後の推移と費用に就て何人も當然だと肯定される程、大いに憂慮してゐた事が完全に明らかとなつた。チャーチル氏は下院の不安を緩和し、本國民をして再び舊弊の戦争政策に屈服せしめんと試みて、下院に於て次の様な聲明を發表した。

一、チャーチルがクリツプス駐ソ英大使の行つた交渉に基き、ソ聯が英國に立つて参戦するであらうと明確な確信を得たいといふ點。及び

二、チャーチルがルーズヴェルト大統領より英國の戦争遂行に對し無制限に援助を與ふべき旨の確信を得てゐる點。

獨逸側の入手せる此の秘密會議に就ての報道に依れば、チャーチル氏は上述の聲明を試みるに及んで、初めて多數下院議員間に歸まる確信を一時し、士氣を鼓舞し得たといふことである。

英ソ兩國の特殊關係は夙くも一九四〇年バルカンに於て露伊利益に衝突して活劇を試みた。越えて一九四一年の初頭を迎へるに及んで、上記の英ソ共同工作は愈々露伊の度を加へ、遂に同年四月に勃發せるバルカン戦役をきっかけとして全世界に鳴れてしま

つた。此の英ソ計費の目的はバルカン半島の露露衝突を出来得る限り三万より抑壓するにあつたが、本計費も我、ヘルカン友好國及び土耳其政府の態度が異つて、露露衝突の迅速な解決に依り事なきを得たのは周知の如くである。

露ソ戦勃發直前ビーヴァブルック卿の凡ゆる必要なる法を以てソ戰を援助するといふ有名な聲明や、また米國にも同様の援助を要請した事によつて、英ソ戦勃發の直の狀態が最初に輿論の前に明らかにされた。かくて露ソ戦勃發直後ロンドン及びモスクワの間に發表された同盟締結は既に長い間事實上に於て存在してゐた狀態を公表したに過ぎなかつたのである。事實今日に於ては露事師チヤーナルがソ戰を獨逸と決戦せしめた際に彼の期望をルーズヴェルト及スターリンの態度に一致させ、歐洲に於ける最後の切り札を獨逸に對し明け出し、一切之に附けた事は世界周知の事實である。

チヤーナルと共にまた全アングロサクソン世界は假面を棄て、ソ戰が尙ほ本國の歐洲に於ける不運な軍事的情勢を挽回し得る状態にあり得るといふ點に希望をつないでゐるのである。

かくて西歐の民主國は一夜にしてボルエヴシズムとの同盟を遂に見る、不正な方法で戰勝した。從來ボルシエヴィズムとの如何なる交渉をも獨逸者に觸れる如く戰つた英國の保守派や米國の百萬長者たちもソ戰は喜びと幸福と楽しい生活を爲してゐる市民の國であると世界に公言したのである。また英米の労働組合や農民組合は、ソ戰は飽食と充足の與へられた労働者の眞の幸福を創造した。またコルホーズは幸福な農民の立場を維持する基礎となつてゐると、極めて正確に彼らの態度してゐる觀察に對し指摘したのである。

猶太人や英國人の學者や文化觀察者の觀察は倫敦や紐育のクラブに於てソ戰は元來學術的、文化的側面の最高峰にあつたと聲明し

た。種々最近までソ聯を以て無神論の淵藪として認める慣習を忽ちやしてゐた大司教や司教や樞機官等はソ聯は常に基督教の播種であつたことを突然語り出し、また今日その保護者であるカンタベリーの大司教は赤軍及びその友人スターリンのために公然と禮拜し祈禱したのである。チャーテル及びルーズヴエルトは彼らに依つて宣稱されたデモクラシーの神聖なる原理に對しボルシェヴィズム政體より近い政體はないと聲明したのである。西歐の民主主義の凡ての者は猶太的ボルシェヴィズムの犯罪國家に對する慈悲深い愛情と同情とを現すことに傾向したのである。然しこの間スターリンによつて得逞されてゐた物質援助は全く現はれないのである。

チャーテルとスターリンが最近互に「戦争の好きな老練軍師」と云ふ言葉で云ひ現はされてゐることは全く實際と一致してゐると云ふべきである。この言葉は余にとつて彼ら相互の眞實な立場を最もよく現はしてゐるように思へるのである。

この五ヶ月間にわが獨逸の軍隊は戦術精まりなき隊、即ち政治委員の威嚇によつて死傷を蒙る隊を排しつゝ、最新式の砲車等の限りなき戦車資料、匪てしなき廣大な地域、巨大な、更に泥濘、雪、霧、寒等に加へて、眞に絶するソ聯の悪路を乗り超えて沈黙の進軍、露進に運進を重ねたのである。

この巨大なる戦隊の、一段階にしゝ、たとへば遠方からでもこれをみた者は限りなき驚異の念に打たれざるを得ないであらう。故國は今や我軍の想像にも及び難い樂觀を長統の念を以てみつめてゐる。併し余をして云はしむれば、驚異的な我軍の英雄的行爲も無比の戰略的天才によつて之等の會戰が指揮されなかつたとすれば總て無に等しかつたであらう。

巨人民族が自ら其の國境に回らし、且つ近年來殆ど完全に他の世界から遮断してゐた秘密は、今國の獨ソ聯の進軍に伴ひ初め

て完全に壓服せらるゝに至つたのである。ソ聯に於ては世界最大國に身を賣つた一人の暴君が無制限なる政權欲に驅られて、一億九千萬にも上る其の國內の諸民族の全力を一つの目標に向はしめたのである。即ちボルシェヴィズムを奉ずるモスカウ主義により全世界を制覇せんとしたのである。戰に買収許りでは此の目的に到達する手段として充分でないのを認識したスターリンは、露の如き徹底さと無遠慮とを以て此の使命達成の爲、暴力を以てソ聯に準備せしめたのである。人も物も同様な狂信を以て、この目標に向つて驕り立てられたのである。露西亞人の文化的及び物質的生活水準は奴隸の標準に等しくなつた。現在の露西亞人は殆ど全て見るも民衆的な陋俗に住み、愚昧に瀝し生活に貢養あらしめる所の全ての物を失つたのである。能力、美、家庭、神は彼等の到底思ひ及ばざる所である。味氣なき、辛い、悲惨な、何等生活の楽しみも、又理想もなく露西亞人は人々の到底想像し得ない如き状態に陥つたのである。人々が創設した組織を僅か一時代をも経たない内に人類をして完全に畜生にまで陥れた事實を認める時は實に悲慘極まるものがある。此の凶人の如き環境に於て農夫も労働者も戦時作業の爲に壓迫され、最後のループルに至る迄世界最大國に關する赤軍の相次ぐ軍備擴張の爲に制辱されたのである。斯くして數年間に未だ村落や小都市が存在してゐた處に巨大なる軍需及び戰争經濟の爲の大工場が建設され、併せて平和な耕地であつた處に大規模の軍事工廠や飛行場が建設された。

歐羅巴の政治及び軍事情勢がソ聯に有利と見えるや、時を移さず此の露大ゴルシェヴィズムの壓迫ローラーは全歐を縱横に蹂躪する勢になつてゐた。獨逸軍が同年六月廿二日といふ土壇場に立ち上つた時には、既に赤軍の對歐攻勢進駐は完了済みであつた。

諸君！此の巨大なソ聯の權力伸張とその獨裁者スターリンの對歐政策をめぐる一切の思惑と前提條件とは、更に次の事實により懇切にして暴露されて了つた。

即ち總統は獨逸及び聯合量を提げ一九四一年の大規模な海軍に於て此の超大國を完備なきまでに叩きのめし、歐羅巴を獨大的
ボルシエヴィズムの擴張と水運の奴隷化の脅威から救出し得たのであつた。此の點後世は永久に記憶に銘記すべきである。

余は此の報告に一九四一年に於けるソ聯の善後と歐羅巴地域に及ぶ影響を次の如く要約する。

一、大膽に覆された英國最後の盟邦も今や重要な因子ではなくなつて了つた。獨逸及びその聯合國は今や歐羅巴に於て取
れざるものとなつた。然も離脱すべからざるその實力は今や愈々手持無沙汰の體である。

二、經濟的にみて獨逸國及びその友邦は今や全く海外からの補給を必要としなくなつた。歐羅巴は今こゝ永久に封鎖の脅威か
ら解放されたのである。歐羅巴の穀物及び原料資源は歐羅巴の需要を充たし得て餘りある。歐羅巴の軍需工業はその儘そつくり

獨逸及びその盟邦の軍需工業の膝下に委縮する事とならうしその爲歐羅巴の勢力は今後更に一層増大するであらう。然も此
の超大地域の行政は既に早くも緒に就いてゐる。かくて今や獨逸國及び其の同盟國の英國に對する最後の勝利を形成すべき
二つの殘された決定的問題條件は早くも排除されたに等しいと云はざるを得ない。

一九四一年度に於て今日獨逸及び同盟國はソ聯の最も人口稠密な部分は悉く原料資源、軍需物資の點で重要なソ聯の大部
分を占領してゐる。更にまた此の領域にはソ聯工業の大部分が散在してゐる。ソ聯に残された軍事的、經濟的立直りの可能性に就
き、東部今後の進退を豫測する事は故て困難ではない。驅逐された兵士の不足及び軍需資材の缺乏は勢ひソ聯をして將來に亘り大
胆に勝敗を左右する程重要な軍力減損を不可能ならしむるものに他ならない。餘り獨逸國上の優勢を檢討するに、所くして獨逸國及
びその同盟國は英國及び英國の援助國に比し、獨逸國上絕對優勢を保つてゐると云はざるを得ない。歐羅巴の北部、西部、東部及び南

東亞に於ける覇權は、俄に俄の勝利に歸し、今後東亞の國家の思想が如何に變遷を遂げしところ、我々歐羅巴に對したところ、事實を左右することも出来ないものである。

英國はすでに歐羅巴は勿論、阿弗利加に於ても、我等友邦諸國の果敢な攻勢精神と戰闘能力が成し遂げた業績に對して、充分賞讃がついた筈である。然も目下復たしても阿弗利加では戰闘が熱し退きされてゐる。然し上記地域は大局から観ても、地理的には輻輳點にとつて斷續たる大洋を隔てたアングロサクソン國よりは遙に有利なのである。

更に今や、大西洋に米國の援助を有する英本土と、巨大なる歐州ブロックとの間の對立下に作戰が續けられてゐる。露伊兩國はその陸海空軍の全力を擧げて、その目標とする歐亞國打倒に集中してゐる。この戰闘に際し軍事作戰と同様にまた歐洲團結のため、の人員及び物資、軍需の方面にも凡ゆる機會を捉へてゐるのである。

併しまた世界に於ける政治的情勢に就いてもボルシエヴィズムの敗北は決定的な意義を有するのである。即ち三國同盟によつて結合された日露伊の強國及びその參加諸國の優勢がソ聯の脱落によつて、かくも強化されたと云ふ事について余はこれに堅抗し得る如何なる同盟を見ないと確信する。この同盟國及びその友邦の支配權は大體に於て北歐の岬から地中海まで、大西洋沿岸からソ聯の東地に至るまでの全歐洲領域に擴張されたのである。また露が存在する限り北阿弗利加領域及び西亞に於てもまたこの政治的軍事的勢力を活動するに際ししないのである。東亞に於ては強國日本がその所屬なる諸國の盟主として默然として控へ、世界の如何なる國家と雖も、日本が當然有すべき支配的地位に對し反駁することは出来ないのである。

これらの國家に對立して英國があり、その先頭にチャーナル氏が立つてゐる。何人も英國の對露對日的主張者として考へられて

あるこの人物の心算を知る者はない。若しもチャールズ氏が今次の戦争に於て最早勝利の見込なく、寧ろ現在の英領はゲームに置けたといふことを今日すでに心算に懸してゐないとしたならば、それは全く驚きに堪へないことである。彼は勿論自國民の前ではこの事實を認め得ないし、また最後に尚ほ所謂同盟國である米國合衆國の援助に彼の希望をつないでゐるのである。

陛下に諸君！ ルーズヴェルト大統領は數年來獨逸及びその他の出来るだけ多くの國々を戦争により脅嚇して來た。最近アメリカ合衆國の戦争加動者たちが獨逸に對して執るに至つた態度が、益々露骨の度を加へるに及んでは、われ／＼としても、この態度については全然其手續戰的態度を以て臨む何らの理由もない。

獨逸の國民はその全歴史に於て亞米利加國民に對して怨恨を抱いた事もなく、また憎惡を持つた事もなかつた。それにも拘らずルーズヴェルト氏は、謀略、歪曲、誹謗の限りを盡して、その國土と國民を對獨逸戦争に陥りたてやりとしてゐる。

獨逸は事變がかく隠蔽するを欲しなかつた。然し乍らこの場合亞米利加の國民が語つたのでもなければ、又隠り得たわけでもなく、既にルーズヴェルトが勝手に行つた政策に過ぎないといふ事實が露呈されるに及んで、總統はこの間の事情を考慮し、又これに應じて獨逸國政府は、初めてルーズヴェルトの態度を取り上げて問題とするに至つたのである。ルーズヴェルト大統領のかうした態度に鑑み、余は茲に次の事實を陳明したい。

亞米利加合衆國が我々の敵國に軍需品を供給するか、又どの程度に供給するか、更に又亞米利加が参戰するかどうか——之等の問題は今次戦争の結果、即ち極東國及びその同盟國の勝利には何ら影響を與へないであらう。

御の運命により何千キロメートルの大津を離れて存在する國々の諸國民が何故相互に全力を擧げて戦ひ合はねばならぬかといふ

事は兎に角我々の自問せねばならぬ事である。型下の情勢は一方には國家主義の存在、一の新しい社會的秩序及び物資の公正な分配を受けんと闘ふ諸國民があり、他方には擄取者の國際猶大金權的世界の利益がルーズヴェルト氏と共に先頭に立つてゐて、この兩者が互に對立してゐるといふ事實に思ひ當つてこそ現今の情勢は理解し得られるのである。

ルーズヴェルト氏は然も尙ほ彼らに資本的同志の利用し得らるる凡ゆる宣傳機關を總動員して國家社會主義國及ビソアッジズム伊太利に對する嫌惡心を煽り立てたのである。如何なる手段をも選ばず時には獨斷を、又時には伊太利或は日本を交互に善後を遣して誹謗してゐる。其の言ふところは「獨逸は全世界の宗教を壓迫せんと欲してゐる」とか、「ヒトラーは南米を征服せんとするのである。又亞米利加合衆國を壓迫せんと欲してゐる」とか、更に「ヒトラーは世界を分割せんとするものだ」とか、凡ゆる事を亞米利加國民に向つて叫ぶのである。然し勿論之等は凡て眞に擧げた話であることはよく解つてゐる。獨逸の生活は數世紀に亘つて東部に壓迫するであらうが、この獨逸は第一には亞米利加に對抗して進出せんとする何ら原因を有せず、又隨つて亦もその意向を有しないと云ふことは人の知るところである。

第二には獨逸がアメリカを攻撃すると云ふ事は軍事的に觀ても全く空想的なナンセンスである。アメリカの軍部はこれを充分知つてゐるが、尙且つアメリカの戰爭活動者共が絶えず獨逸の對米武力攻撃が可能であると論じてゐるのは實にこの獨逸が自己の意圖をカムフラージュするために必要だからである。所謂「コソ泥を押へて壓け」といふ式で、アードルフ・ヒトラーが世界征服の諸計畫を有すると提議してゐるのである。これは實にこんな事を叫んでアメリカを通してユダヤ金融主義の勢力をこれを振ひ落した凡ての國々に於いても獨逸に損めんがためである。この原因を除外してもアメリカは獨逸、伊太利及び日本に對抗する

事を決定してゐるのである。米國は地圖や文書を偽造した。必要な場合は中立違反行為をなさんとしながら中立を宣言したのである。『現金輸送貨項』を命令はしたがこれは寧ろ推測されたもので、先づ現金貨項を大いで輸送貨項を再び停止したのである。ポルシエヴィズムを不倶敵大の敵と稱し乍ら數週間後にはこれと提携するに至つたのである。最後に海陸命令を出し、而して獨逸の船舶に殺戮し、而も獨逸の船舶が防禦すると憤慨するのである。

米國民の健全なる常識が何時まで米國政府のかゝる濫に政策を甘受するかは實際問はざるを得ない。事實理性ある米國人はこの政策に對し抗議してゐるかの如き標子が、種々と現はれてゐた。最近の議會に於ける投票によつて見ても、現在の米國政府の戦争政策は米國民の一小部分により支持されてゐるに過ぎない。といふのは若し一の外國の政府がその強硬的な見解、傲慢、憎惡のため凡ての自然法に反し、且つモンロー大統領の實明な主義に反して一つの大洋の彼方にある地球の他の部分の一切の事柄に干渉しまたこれを精神的に物質的に領有しやうとすればこれは米國民の生活意志を眞に表明するものではない。何故といふに第一に米國民は一切の資源を自國內で所有し、第二にそれが決して脅威されず、他國民も彼らを決して精神的に指導したり、況んやそれを支配し得ない事を全く正確に自覺してゐる。アメリカはアメリカ人に、歐羅巴は歐羅巴人といふのは極めて實明な公式である。これを度外視しては世界の大戦局が長く誘引されるのである。

もしもアメリカの國民がかくの如きルーズヴェルト大統領の不自然な目的追求の犧牲として、不幸に顛落し、他の世界、即ち歐羅巴に對する戦争に突き入れられるとすれば、われわれはたいお氣の毒と申し上げる外はない。而してたい次の一事だけを茲に懸念したい。

即ち一方アメリカ合衆國と他方歐羅巴並びに東亞との間に戦争が勃發したとすれば、この戦争及びその結果に對する責任は、一にルーズヴェルト大統領の責任とすべきものなりといふことは、今日すでに歴史の前に對として動かすべからざるところである。一體如何なる理由で、ルーズヴェルトが、かゝる政策を執り、その國民をその座まざる戦争に陥り立てゝゐるのであるかはわれわれの疑問とせざるを得ないところである。アメリカの國民自身にとつてはルーズヴェルト大統領のこの政策は、いつかは精神的にも、物質的にも極めて高價なものになるであらう。何故なら、

一、アメリカの税務者がイギリスの對英戦争の主たる負擔を共に引き受けねばならなくなるであらうことは明白である。

周知の如くイギリス並にその他の諸國は、今日も同、凡そ百五十億弗に達する前世界戦争當時の負債を拂し、平和時にもその利子へ負擔ふことが出来なかつた。況んや賠償においてをやである。そして高價を拂ふことも出来なかつた位だから、新しい負債の如きは全く負擔ふ能力がないことは明瞭である。従つてアメリカが今日何れかの國に提供する貸、大砲、飛行機等は、何れも全部アメリカ税務者の負擔となる外はない。アメリカの品物が何らの代價も受けることなく純價的に國外に出て行くのであるから、比較的新聞のうちにこの國は、猛烈な經濟恐慌に見舞はれず済む筈がない。これは以前の歐戰に臨みても明かである。余の見るところでは、一九二九年のアメリカ恐慌の如きは、現在ルーズヴェルトの遂行してゐる戦争政策、經濟政策の結果として生ずるであらう當局に比ふれば、實に兎兎に等しいものであつた。ルーズヴェルトは、民主主義の標榜のために闘ふものと主張してゐる。しかし氏にしても實質にこれを遂むならば、戦争を求めたり、ボルシエヴィキのロシアと組んだりなどしなかつたであらう。しかし彼は戦争を求め、ボルシエヴィキと組んだのであるから、彼及びユダヤ人ブレイン・トラストの政治的野望を遂立しやうと

する自分の意思を貫徹してしまつたことになる。而してルーズヴェルト氏は、アメリカの皇子たちの血を犠牲にしやうと用意してゐるのである。

二、ルーズヴェルトは人氣最大の敵、ボルシエグイズムと結んだ。その結果は、以前他の國々で見られたと全く同様に、アメリカにも自動的に獨裁的な社會的な獨立となつて表はれるであらう。われわれの豫言するところによれば、ルーズヴェルト大統領はソヴェート・ロシアとの提携によつて、事實最も望むべき一の社會的變局を醸し出した。

この變局こそは亞米利加の國民を驚愕させ、數十年前の狀態に投げ返す結果を招來するに至るであらう。

チャール氏はこの政策を、自分の創意によるか、將又ルーズヴェルト大統領の影響によるかは別として、充分の確信を以て支持してゐる。勿論主たる犯人はルーズヴェルト氏であるが、これを主として指導する者は本國であらう。何故ならば本國の將來は正に變遷たるものがあるからである。

余は今次の戰爭に於ける本國の狀態と、その見通しを次の如く略述せたいと思ふ。

一、三國同盟に結合されてゐる國家及びその同盟國に對し陸上軍に海上に於ても勝利を得る事が出来なかつた。必然の結果として、ある動機からその援助方法を考へなければならぬが、この間我々の可能性は増大されつゝある。

二、チャールズの参戰した本土及び歐洲の間に於ける空軍の弱びに於ても本國に利はない。本土の地理的状態及びその經濟状態は歐洲大陸に對する空軍の集中攻撃の爲には反對に無價に多くの惡條件を有してゐる。

三、日本を除く歐戰國自身はソ聯の敗北の後、使用出来る經濟及び軍艦能力を英米のそれよりも無限大に獲得した。

四、英國は今後の戰爭を斷行する事によつて次々に地位を失ひ且つ必然的にその世界國家は益々外國依存の度を強めて行つた。
五、獨逸及び同盟軍の主力が英本土を海峽陸より集中攻撃を爲す事によつて英本土は危殆に瀕し、且つ何れは斷崖に懸するであらう。
所謂獨逸の和平の試みに關する英國の主張に對しては余は左の如く言明する。即ち「獨逸國會におけるヒトラー總統の數次にわたる對英和平提案、特に佛蘭西敗北後の和平提案が、英國の露骨な拒絶に遭つて以來、獨逸はそれ以上和平を提案しなかつた。獨逸は現在も亦將來も和平提案をなす意向を斷じて有してゐない」と。

次に余は英國の所謂宣傳機關「大獨逸」に於ける「革命」に對し見解を述べたい。チャーチル氏は以前も現在も、又今後も獨逸の心理學者である。彼はまた斷々斷つた判斷を下し、生涯の大失態を犯き、而もそれを首相になつて迄も繰返してゐるといはれてゐる。或る種の民主主義には時に人氣を博してゐる標であるが、併し彼は政治家として彼の祖國の運命をかくの如き近視眼的な希望に託してゐる事だけで既に邪に見る者といふべきである。史上最大の進軍を敢行し、その同盟國及び友邦と共に歐洲を支配し遂にその生命體を確保し、それによつて經濟的に外部の世界から獨立し、數世紀後に大獨逸國建設の願望を實現した獨逸國民は今や正當なる革命を爲さねばならない。これはまた伊太利に就ても同様である。即ち不世出なムッソリーニ首相の出現とそのファッショ運動は全國民に感服されてゐるのである。

併し假令この一切が反對になり、獨逸が勝利に次ぐ勝利を獲得する代りに敗北に敗北を重ねたとしても、たゞ一つのことが見えて来る。即ち國民社會主義獨逸は決して降伏されないと云ふことである。

最近英國の最大の軍事専門家として持擧されてゐるチャーチル氏は自動車、戰車及び飛行機、空軍の現代では非武装地帯に於け

る運動も聞く間に運動されると云ふことを正當に知るべきである。併しチャーナルは又これに就いても正しい助言や情報を受けてゐない。併しそれは決して決定的なものではない。歐洲の諸國民は暴動を起すことを毫も欲してゐないのである。勿論たゞ一つのこととは明らかである。即ちそれは英國の歐洲政策が戦争によつて破壊された後に我々の歐洲大陸を新しく建設することは今日明日と完成され得ることではないと云ふことである。この際は陣痛を仰はざるを得ない。我々は存続に變轉して後初めて新しい境遇に順應せねばならぬ。

従つて今後猶ほ幾多の衝突の餘地はあるにしても、次の一點に關する限りでは全歐證一人として異論を差し挟む者はない筈である。即ち英國は歐羅巴に於て將來最早全然企及むべきでないと云ふ事である。兎も尚英國は歐羅巴に於て擴張の限りをつくして來たのである。一國を他國に對して利用し、あらん限りの策謀を逞しうし、再三ならず戦争の張本人となり、然も他國に血を流さしめて戦争を遂行させて來た。

これは今日三歳の童兒でも知悉してゐる。だからこそ歐羅巴は自今永久に英國の政策と縁を切らうとしてゐるのだ。御蘭西でさへ此の意味で今や歐羅巴良心の胎動を見てゐるではないか。

英國にとりて之を最後とする本大戦争は本大陸諸國に幾多悲慘事を齎したが、歐羅巴居住者の愚考を改變すること平時數年に比し遙に速かなるものがあつた。個々利己的の理由よりして今猶ほこれを信ぜず、乃至又これを信り乍ら口に出さぬ者があるとしても歐羅巴民族は結束せりといふ事實だけは否定し去る譯には行かないであらう。それでもまだ左右を供し得ない者があるとしたら、それは英國の對ソ反俄同盟が此の層にまで動きかけて眼を開いたからに違ひない。英國が今日何にも増して盛んでゐるのが歐羅

巴をボルシエヴィズム的變遷の標に投落せしめる事、自國は今までの本土上に在つて弱く息を抜き、あは良くは何時か一度は再び歐大陸を首都へと使喚しようといったとんでもない空想みに翻つてゐること位は歐羅巴で知らぬ者はないといつてもよい。歐羅巴は今や結束した。我々は愈々これから高潮した動を體驗せんとしてゐるところなのである。その大半は英國の新同盟國が乃至英國の爲今次反歐戰爭にそのかされ悲境に突き落とされた歐羅巴諸國が次ぎ次ぎに英國より反し極端に趨つて今やその息子達までも共同の敵たるボルシエヴィズム打倒のために提供せんとする動を體驗せんとしてゐるのだ。今や歐羅巴は史上初めて歐羅巴の緒に就きつゝある。之れぞ海に異常な激進といふべきである。諸民族の歐羅巴な本能は彼らをして、いみじくも彼ら前政府の計畫とは凡そ對蹠的方向を辿らしめた。然も之等前政府たるや目下亡命者として倫敦でスターリンの同盟者たるチャーテルと同じ机を圍み、今日ではその失條せる民族からさへゆしも相手にされてゐないのだ。殆んどすべての歐羅巴諸國の息子達は現に東部諸國に在つて、我大陸の生命と文化の維持に當りつゝ闘つてゐる。此の共同戰爭で流された血潮こそは過去一切の偏見にも増して重きものがあらう。茲に新しき歐羅巴は——チャーテル氏とルーズヴェルト氏とその對蹠的無厭の欲すると否とに拘はらず進軍する。然も毅然として傍目も振らずに。此の大陸の諸民族は國で新しき歐羅巴を建設し、其の間、和戰を問はず一切の阻害を許すものではない。

軍事的に取勝を許さず、經濟的に復興をひななくして初めて我々は平時の如く此の大陸を政治的に組織し得らるゝのである。又若し我々經濟だけで勝つ者あらば之に十倍の朝敵を興へるに否さかなるものでない。事實、今日こそ歐羅巴は眞一の場合には三十年戰爭をも敗つて許せず、然もそのため大陸が前夜に陥るが如き憂は等もないのだ。我等の大陸は民族相互の一致結束を愈々望

くして、歐羅巴大陸の覇事を敗てする一切の者に就して益々強力な因子となるであらう。

諸君！而して今や極權國及び其の友好國の指圖下にある新歐羅巴秩序に呼應して更なる新秩序は日本及びその友好國の指圖に開通してゐるのである。何人と雖もこの恒久的事業の障礙を阻止し得ない。この目的が達成されるまでには尙甚大な努力と犠牲が必要であらうが然し乍ら資本的商賈人や自國民を政治的に壓迫する者より成る國際的法律機關の一味に對抗して新秩序を確立せんとする若い民族の争闘が絶對的勝利を獲得することは幾ぶ餘地がない。然るが故に神意は我々の争闘に既に今迄も大なる恵みを垂れ給つたのであつて、今後も又我々を加護するであらう。

一つの目標めた世界のこの新秩序に對抗する侵略者を徹底的に覆滅するまでも！

昭和十六年十二月廿三日 印刷

昭和十六年十二月廿八日 發行

〔定價三十圓〕

三

東京市豊島區内幸町一ノ二

編輯
印刷
發行
人

杉原三郎

東京市豊島區内幸町一ノ二

發行所 日本産業報國新聞社
出版部

電話總機八二二 一三八九番
振替口座 東京二〇〇一番



